

令和6年度 全国学力・学習状況調査  
調査結果報告書

岩見沢市教育委員会（岩見沢市立教育研究所）  
令和7年(2025年)1月21日

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、市内における児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 報告書の内容

文部科学省では調査結果の解釈等に関する留意事項で「本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要である」と述べている。この点を十分に踏まえた上で、本報告書では岩見沢市の調査結果からみた学力の全体的な傾向及び児童生徒質問紙等の特徴的な事項並びに指導改善の取組等について記載している。

## 3 調査の対象

小学校第6学年と中学校第3学年の全児童生徒

## 4 調査の内容

- (1) 教科に関する調査〔国語、算数・数学〕
  - ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
  - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等
- (2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
  - ① 児童生徒に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）
  - ② 学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）
- (3) 学校質問紙調査
  - ・全国学力・学習状況調査の実施：令和6年4月18日（木）
  - ・調査結果の分析：令和6年7月31日（水）～令和7年1月21日（火）
  - ・報告書の完成：令和7年1月21日（火）

校種	学校総数（校）			参加学校数（校）			児童生徒数（人）		
	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)	岩見沢市(公立)	北海道(公立)	全国(公立)
小学校	14	937	18,529	14	932	18,466	494	34,531	947,579
中学校	9	572	9,347	9	566	9,268	516	33,614	875,952
合計	23	1,509	27,876	23	1,498	27,734	1,010	68,145	1,823,531

## II 教科に関する調査結果の概要

### 1 岩見沢市の児童生徒の学力の状況

#### ○平均正答率との比較

- ・小学校は、国語は全国平均とほぼ同様、算数については全国平均より低い。（全国との差が国語は2.7ポイント、算数は5.4ポイント）
- ・中学校は、国語は全国平均とほぼ同様、数学についても全国平均とほぼ同様。（全国との差が国語は2.1ポイント、数学は1.5ポイント）

### 2 岩見沢市・北海道・全国の平均正答率

(%)

児童生徒	項目	国 語			算 数・数 学		
		R6	R5	R4	R6	R5	R4
小学校 6年生	岩見沢市	65	64	66	58	61	63
	北海道(公立)	67	66	64	61	61	61
	全 国(公立)	67.7	67.2	65.6	63.4	62.5	63.2
中学校 3年生	岩見沢市	56	69	69	51	52	51
	北海道(公立)	58	69	69	51	49	49
	全 国(公立)	58.1	69.8	69.0	52.5	51.0	51.4

※岩見沢市と北海道の各教科平均正答率については、国から提供された整数値で示している。

### 3 全国の平均正答率を100とした場合の岩見沢市・北海道の数値

(%)

児童生徒	項目	国 語			算 数・数 学		
		R6	R5	R4	R6	R5	R4
小学校 6年生	岩見沢市	96.0	95.2	101	91.5	97.6	100
	北海道(公立)	99.0	98.2	98.0	96.2	97.6	97.0
	全 国(公立)	100	100	100	100	100	100
中学校 3年生	岩見沢市	96.4	98.9	100	97.1	102	99
	北海道(公立)	99.8	98.9	100	97.1	96.1	95
	全 国(公立)	100	100	100	100	100	100

Ⅲ 教科に関する調査結果

1 小学校国語

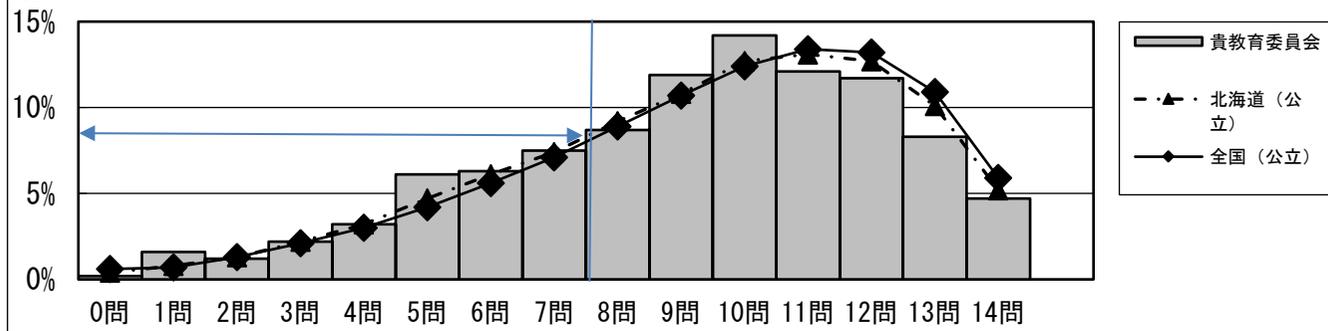
【概要】

- 平均正答率は65【65.0】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.7ポイント

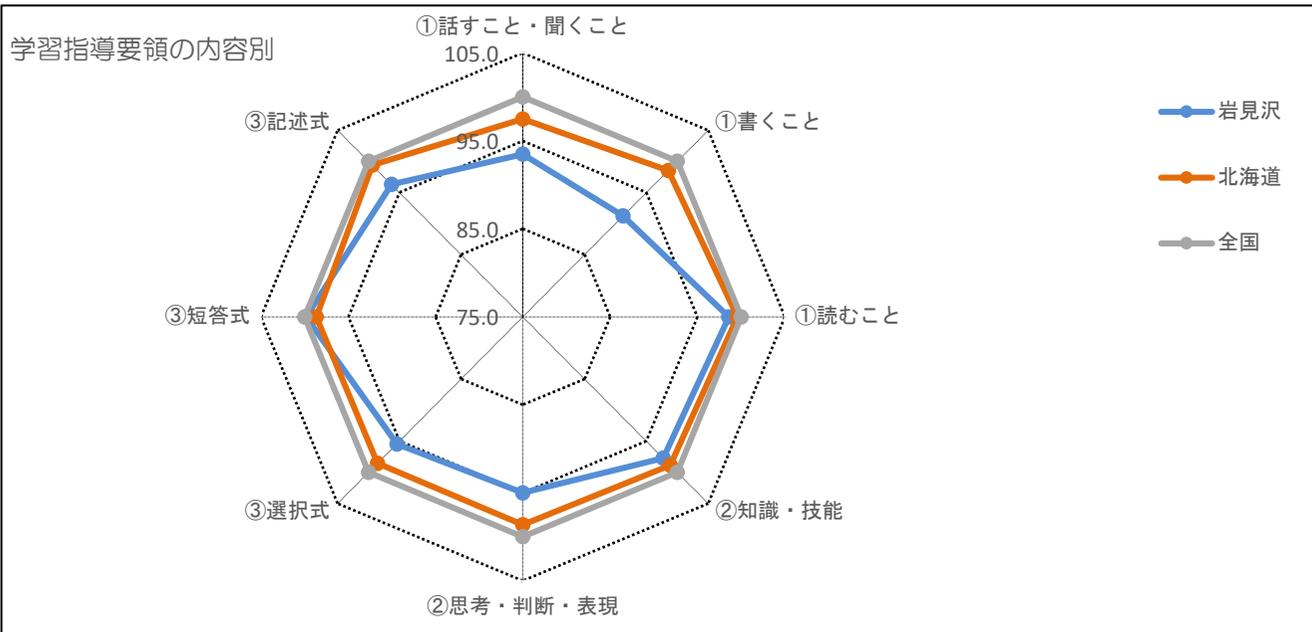
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	494	9.1 / 14	65	10.0	3.1
北海道(公立)	34,531	9.3 / 14	67	10.0	3.1
全国(公立)	947,364	9.5 / 14	67.7	10.0	3.1

■全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

- 割合：岩見沢 28.3%  
：全国 24.6%
- 正答数：14問中7問以下
- 全国との差：3.7ポイント多い



正答数分布グラフ(横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	岩見沢	岩見沢	道(公立)	国(公立)
14問	23	4.7	5.2	5.9
13問	41	8.3	10.1	10.9
12問	58	11.7	12.7	13.2
11問	60	12.1	13.1	13.4
10問	70	14.2	12.7	12.4
9問	59	11.9	10.8	10.7
8問	43	8.7	9.2	8.9
7問	37	7.5	7.4	7.1
6問	31	6.3	6.1	5.6
5問	30	6.1	4.7	4.2
4問	16	3.2	3.2	3.0
3問	11	2.2	2.2	2.1
2問	6	1.2	1.3	1.3
1問	8	1.6	0.8	0.7
0問	1	0.2	0.4	0.6

△

◇

▽

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	10.0問
▽ 第1四分位	7.0問	7.0問	8.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については岩見沢市は全国と比べ、第1四分位と第2四分位の正答数が1問ずつ少ない。  
児童数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」では少なく(-5.3ポイント)、「正答数の少ない層」では多い(+5.1ポイント)。

## (1) 小学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

### ① 課題等

〔思考力、判断力、表現力等〕

【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.5で6.5ポイント下回っている。令和5年度は96.8で令和4年度は95.2であり、前年度より下降傾向が続いている。
- ・問題番号では、1一、1二(2)、1三が該当し、3問とも全国を下回っている。
- ◆「資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことに課題がある。〔1二(2)〕

【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は91.2で8.8ポイント下回っている。令和5年度は79で令和4年度は105.2であり、前年度より向上している。
- ・問題番号では、2一(1)、2二の2問が該当している。
- ◆「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にしたり、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する」ことに課題がある。〔2一(1)、2二〕

【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は98.6で1.4ポイント下回っている。令和5年度は99で令和4年度は98.8であり、やや下降した。
- ・問題番号では、3二(1)、3二(2)、3三が該当し、2問が全国を上回り1問が下回っている。
- ◆「登場人物の相互関係や心情などについて、描写をもとに捉える」ことに課題がある。〔3二(1)〕

【知識及び技能】 【言葉の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は97.8で2.2ポイント下回っている。令和5年度は99で令和4年度は102.3であり、下降傾向が続いている。
- ・問題番号では、1二(1)、2一(2)、2三ア、2三イ、3一、3四が該当し、2三イは全国を上回り、残り5問は全て下回っている。
- ◆「学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う」ことができている〔2三イ〕、一方、熟語の理解定着に課題がある。〔2三ア〕

### ② 課題から考えられる指導改善のポイント

- ・本市では、全国と比べ、全ての領域で正答率が低く、特に「A話すこと・聞くこと」領域の3つの設問の趣旨「目的や意図に応じて、伝えたい内容を検討して明確にしたり、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことに大きな課題が見られます。
- ・目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫するためには、話し手の目的や意図、聞き手の求めていることに応じて、伝え合う内容を集め、分類したり関連付けたりするなど、伝え合う内容を検討することが必要です。そのため、相手の目的や意図を意識して聞き手の求めていることを把握し、伝える内容を集めて整理分類して明確にすることや、相手の状況に応じて話し方を変えるなど表現の工夫をすることが大切です。また、「B書くこと」領域の2二の「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」とも関連しており、文章を書く目的や意図を明確にし、考えを深めることができるようにする指導の充実が大切です。
- ・全国的にも「A話すこと・聞くこと」領域の1二(2)と「B書くこと」領域の2二の問題で正答率が低く、岩見沢市と同様の課題が見られます。

(2) 小学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道) (公立)	(公道) (全国)	岩見沢市	(公道) (公立)	(公道) (全国)
1一	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかをみる	58.3	61.5	62.5	0.0	0.4	0.7
1二(1)	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかをみる	72.3	75.2	75.9	0.2	0.4	0.6
1二(2)	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかをみる	49.8	51.8	52.9	0.2	0.4	0.7
1三	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかをみる	59.5	61.7	63.8	0.2	0.7	0.9
2一(1)	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかをみる	73.7	79.3	80.3	0.6	0.7	0.9
2一(2)	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかをみる	83.8	86.3	86.9	0.6	0.7	0.9
2二	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかをみる	51.2	55.5	56.6	5.5	5.3	4.9
2三ア	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使うことができるかをみる	36.0	43.7	43.4	12.8	13.5	13.2
2三イ	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)		83.2	74.0	76.0	6.1	8.8	8.0
3一	【物語】の一文の中の「かがやいています」の主語として適切なものを選択する	文の中における主語と述語との関係を捉えることができるかをみる	60.3	60.4	62.3	1.0	1.5	2.0
3二(1)	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかをみる	60.9	66.1	66.9	1.0	2.1	2.6
3二(2)	【話し合いの様子】で、原さんが【物語】の何に着目したのかについて説明したものと、適切なものを選択する	人物像を具体的に想像することができるかをみる	74.9	72.4	72.5	1.8	2.3	2.9
3三	【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く	人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかをみる	73.3	72.9	72.6	11.1	12.6	12.6
3四	【原さんの読書の記録】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くことができるかをみる	73.3	74.3	74.6	5.1	6.4	7.6

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合  
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

### (3) 小学校国語 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

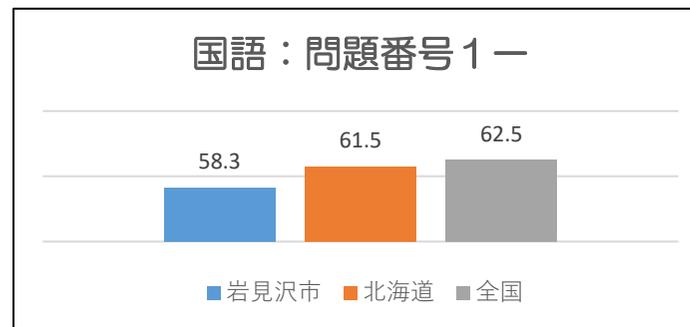
#### 問題番号1ー

問題の概要	学校の取り組みを紹介する内容を【和田さんのメモ】にどのように整理したのかについて説明したものと、適切なものを選択する
出題の趣旨	目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
58.3	61.5	62.5	-4.2

#### (課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、相手が知りたいことを取り入れ、優先して伝えることを明確にしていることを捉えられていない。



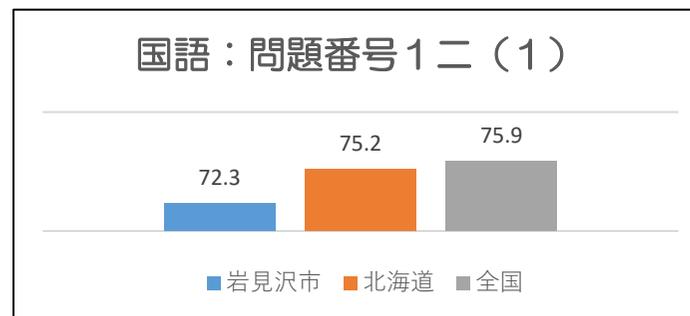
#### 問題番号1二(1)

問題の概要	オンラインで交流する場面において、和田さんが話し方を変えた理由として適切なものを選択する
出題の趣旨	話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
72.3	75.2	75.9	-3.6

#### (課題)

全国と比べ、「話し言葉と書き言葉との違いについて」できていない児童が多い。多くの誤答では、敬語を使うことや間違った情報を直す方が良いと考え、相手の発言を受けて言葉の順序に気を付けて短い文に区切った話し方に変えたことを捉えられていない。



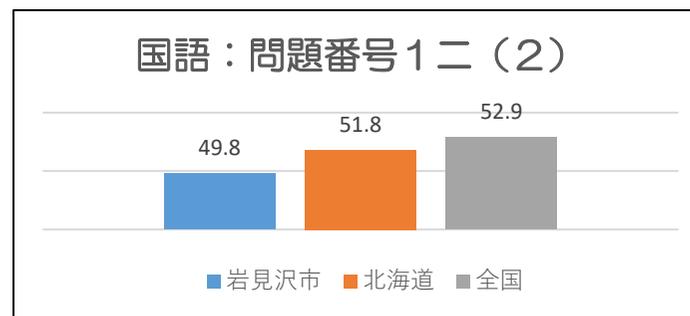
#### 問題番号1二(2)

問題の概要	オンラインで交流する場面における和田さんの話し方の工夫として適切なものを選択する
出題の趣旨	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
49.8	51.8	52.9	-3.1

#### (課題)

全国と比べ、「資料を活用し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、相手が求めることや目的を捉えても相手の状況に応じて表現を工夫することができていなかったり、相手が興味をもっていることに気付かないなど状況での対応が捉えられていない。



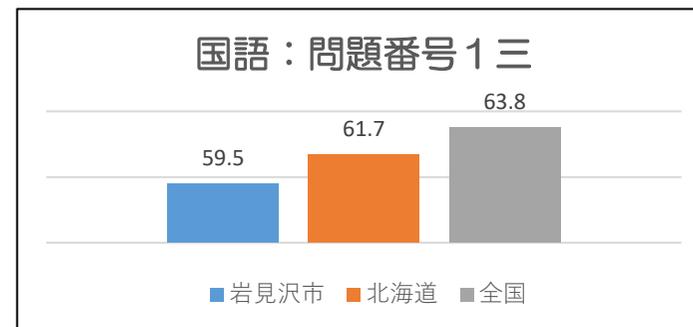
### 問題番号1三

問題の概要	オンラインで交流する場面において、【和田さんのメモ】がどのように役に立ったのかを説明したものと、適切なものを選択する
出題の趣旨	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
59.5	61.7	63.8	-4.3

#### (課題)

全国と比べ、設問1と同じく「目的や意図に応じて、伝え合う内容を検討する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、特定の情報を整理していることや、複数の情報をまとめて伝えていることを捉えられていないため、理解ができていない。



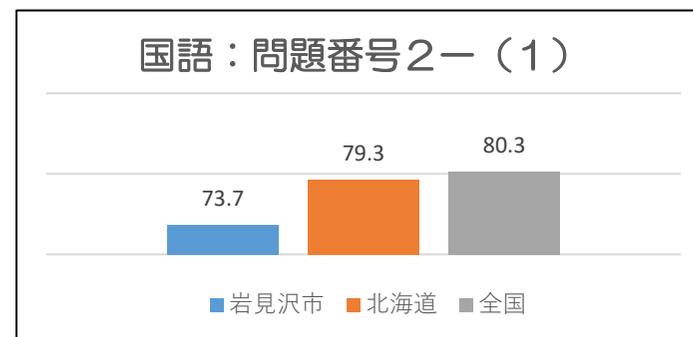
### 問題番号2一(1)

問題の概要	高山さんが文章に書くことを決めるために、どのように考えたのかについて説明したものと、適切なものを選択する
出題の趣旨	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
73.7	79.3	80.3	-6.6

#### (課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、伝えたいことを明確にする」ことができていない児童が多い。伝えたいことを明確にするためには、集めた材料を目的や意図に応じてまとめたり、それらを互いに結び付けて関係を明確にすることが大切であるが、どのような意図なのかを捉えることができていない。



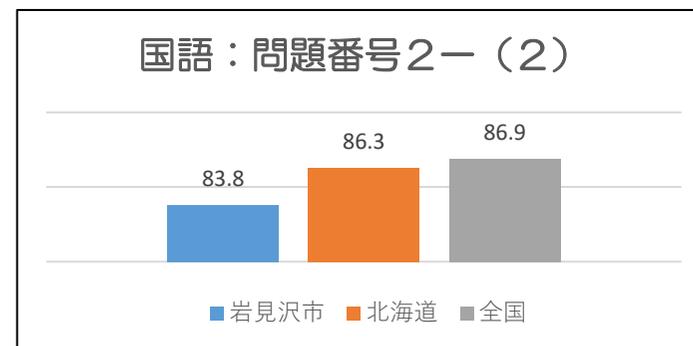
### 問題番号2一(2)

問題の概要	【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものと、適切なものを選択する
出題の趣旨	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
83.8	86.3	86.9	-3.1

#### (課題)

全国と比べ、「情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う」ことができていない児童が多い。これらのことを通して考えをより明確にしたり思考をまとめたりすることが大切になってくるが、特定の言葉と関係する言葉を結び付けている関係を捉えられていない。



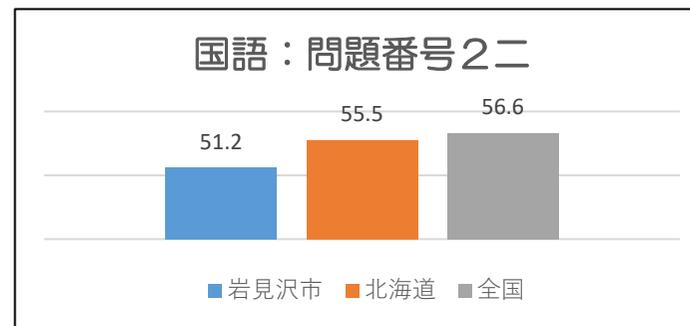
## 問題番号2二

問題の概要	【高山さんの文章】の空欄に入る内容を、【高山さんの取材メモ】を基にして書く
出題の趣旨	目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
51.2	55.5	56.6	-5.4

(課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように工夫する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、事実について関係付けてまとめて記述しているが、それと関係する自分の考えや意見を記述することができていない。



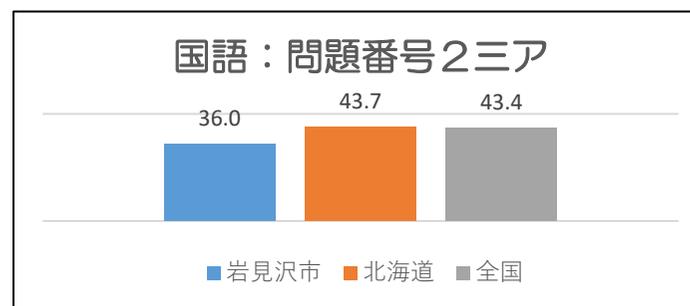
## 問題番号2三ア

問題の概要	【高山さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す(きょうぎ)
出題の趣旨	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
36.0	43.7	43.4	-7.4

(課題)

全国と比べ、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことができていない児童が多い。学習指導では、漢字のもつ意味を考えて正しく使う習慣が身に付くよう指導する必要がある、同音異義語などに注意するよう指導する必要がある。



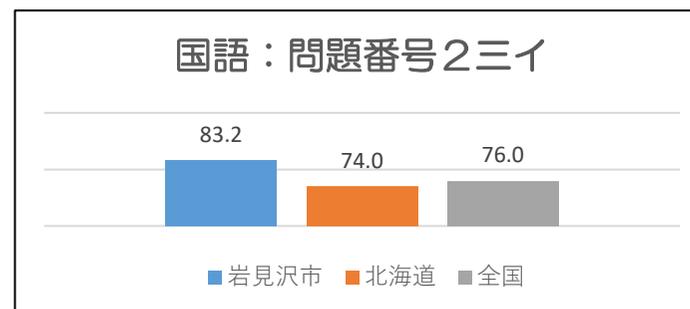
## 問題番号2三イ

問題の概要	【高山さんの文章】の下線部イを、漢字を使って書き直す(なげる)
出題の趣旨	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
83.2	74.0	76.0	7.2

(成果)

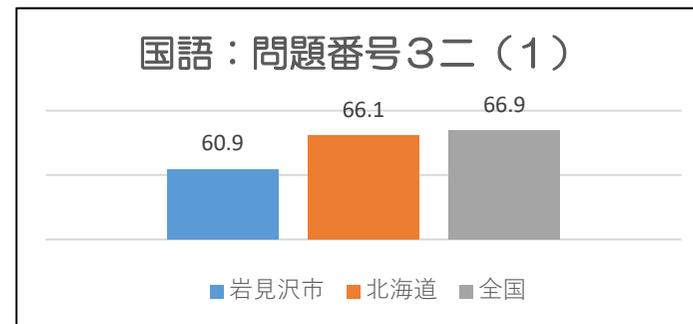
この設問では全国と比べ、「学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う」ことができていて、全国の平均正答率で7.2ポイント上回っている。



問題番号3二(1)

問題の概要	「オニグモじいさん」が「ハエの女の子」にどのように話すか迷っていると考えられるところとして、適切なものを選択する
出題の趣旨	登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
60.9	66.1	66.9	-6.0



(課題)

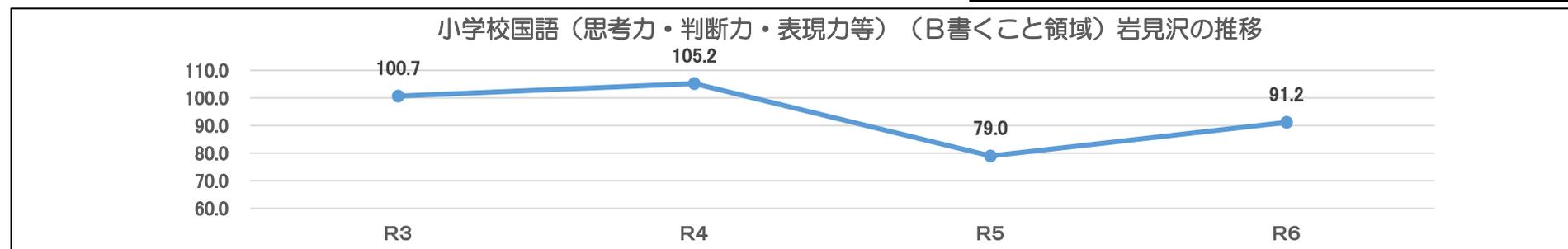
全国と比べ、「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉える」ことができていない児童が多い。登場人物の心情は、直接的に描写されている場合もあるが、登場人物の行動や会話、情景などから暗示的に表現されている場合もあるため、表現の仕方に着目する必要がある。誤答では、行動などの描写に着目できても、心情を考えられる描写を捉えることができていない。

3ポイント以上差のある問題の領域等(9問)

問題番号	学習指導要領の内容(領域)	差
1一	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-4.2
1二(1)	知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)	-3.6
1二(2)	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-3.1
1三	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-4.3
2一(1)	思考力・判断力・表現力等(B 書くこと)	-6.6
2一(2)	知識及び技能(情報の使い方に関する事項)	-3.1
2二	思考力・判断力・表現力等(B 書くこと)	-5.4
2三ア	知識及び技能(言葉の特徴や使い方に関する事項)	-7.4
3二(1)	思考力・判断力・表現力等(C 読むこと)	-6.0

【考察】  
 全国と比べて3ポイント以上差のある問題について、学習指導要領の内容別に見ると、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が6問、【知識及び技能】を問う問題が3問となっている。どちらかというところ、【思考力・判断力・表現力等】の定着に課題があると考えられ、特に(B書くこと)では2問が5ポイント以上、(C読むこと)でも6ポイント差が生じている。また、【知識及び技能】の漢字の使い方の問題では、全国から7.4ポイント下回っていて、確実な定着を図ることが求められる。一方、(B書くこと)領域は昨年度に続いて全国平均を下回っているが、数値的には昨年度よりも上昇してきている。

内容別	知識及び技能	3問
	思考力・判断力・表現力等	6問



Ⅲ 教科に関する調査

2 小学校算数

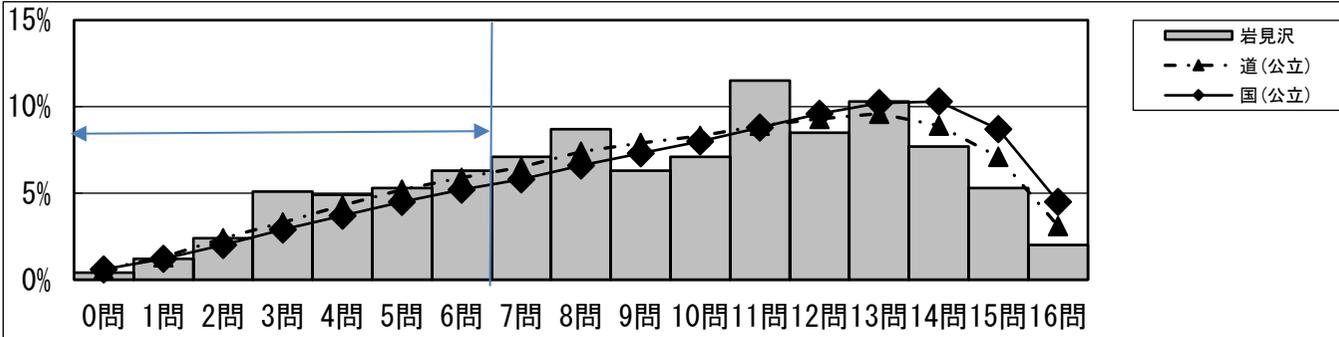
【概要】

- 平均正答率は58【58.3】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-5.1ポイント

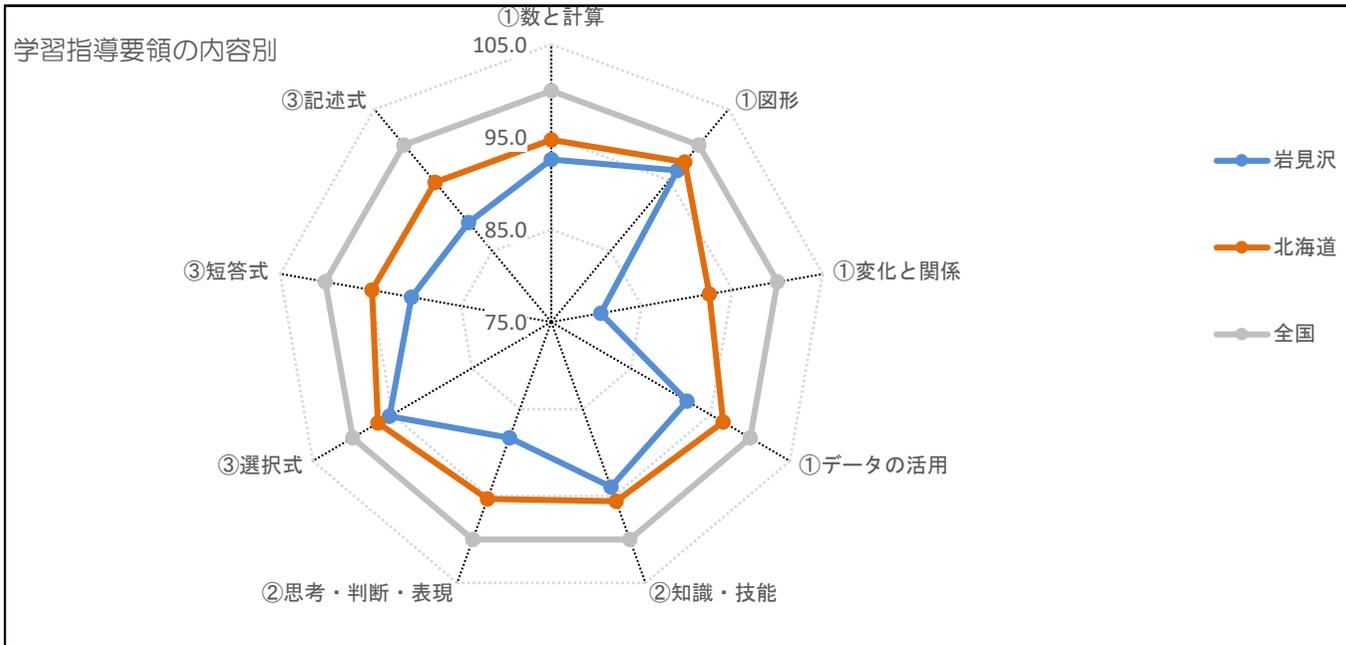
	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	494	9.3 / 16	58	10.0	3.8
北海道(公立)	34,531	9.7 / 16	61	10.0	3.9
全国(公立)	947,579	10.1 / 16	63.4	11.0	3.9

■全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる児童の割合

- ・割合：岩見沢 25.6%  
全国 20.1%
- ・正答数：16問中6問以下
- ・全国との差：5.5ポイント多い



正答数分布グラフ (横軸：正答数, 縦軸：割合)



正答数	正答数集計値			
	児童数	割合(%)		
	岩見沢	道(公立)	国(公立)	
16問	10	2.0	3.1	4.5
15問	26	5.3	7.1	8.7
14問	38	7.7	8.9	10.3
△ 13問	51	10.3	9.6	10.2
12問	42	8.5	9.3	9.6
11問	57	11.5	8.9	8.8
◇ 10問	35	7.1	8.3	8.0
9問	31	6.3	7.9	7.3
8問	43	8.7	7.4	6.6
7問	35	7.1	6.5	5.8
▽ 6問	31	6.3	5.9	5.2
5問	26	5.3	5.2	4.5
4問	24	4.9	4.3	3.7
3問	25	5.1	3.3	2.9
2問	12	2.4	2.4	2.0
1問	6	1.2	1.3	1.2
0問	2	0.4	0.6	0.6

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	13.0問	13.0問	13.0問
◇ 第2四分位	10.0問	10.0問	11.0問
▽ 第1四分位	6.0問	7.0問	7.0問

■は、全国の「第1四分位」未満の正答数の児童の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、第3分位は全国と同数だが第1分位と第2分位は1問ずつ少ない。

児童数の割合では、全国と比べ「正答数の多い層」は少なく、「正答数の少ない層」は多い。

## (1) 小学校算数 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

### ① 課題等

#### 【数と計算】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、92.6で7.4ポイント下回っている。令和5年度は95.7で令和4年度は100.4であり、下降傾向が続いている。
- 問題番号では、1(1)、1(2)、2(1)、2(2)、4(1)、5(4)の6問が該当し、全て全国を下回っている。
- ◆ 「数量の関係を捉え、式に表すことができる」ことに課題がある。〔1(1)〕
- ◆ 「計算に関して成り立つ性質を活用し、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できる」ことに課題がある。〔2(1)〕
- ◆ 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できる」ことに課題がある。〔5(4)〕

#### 【図形】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は96.4で3.6ポイント下回っている。令和5年度は102.5で令和4年度は100であり、下降している。
- 問題番号では、3(1)、3(2)、3(3)、3(4)の4問が該当し、いずれも全国を下回っているが、3(4)は0.1ポイントの差で同様である。
- ◇ 「角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できる」ことはできている。〔3(4)〕
- ◆ 「直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解している」ことに課題がある。〔2(3)〕
- ◆ 「球の直径の長さ立方体の一辺の長さの関係性を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができる」ことに課題がある。〔3(3)〕

#### 【変化と関係】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は80.5で19.5ポイント下回っている。令和5年度は96.9で令和4年度は97.7であり、大きく下降した。
- 問題番号では、4(2)、4(3)、4(4)が該当し、全て全国を下回っている。特に、4(3)は10.6ポイント、4(4)は全国を11.6ポイント下回っている。
- ◆ 「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できる」ことに課題がある。〔4(2)〕
- ◆ 「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」ことに課題がある。〔4(3)〕
- ◆ 「速さの意味について理解している」ことに課題がある。〔4(4)〕

#### 【データの活用】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は92.1で7.9ポイント下回っている。令和5年度は98.0で令和4年度は98.7であり、下降傾向が続いている。
- 問題番号では、5(1)、5(2)、5(3)、5(4)が該当し、いずれも全国を下回っている。特に、5(4)は全国を8.0ポイント下回っている。
- ◆ 「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができる」ことに課題がある。〔5(1)〕
- ◆ 「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはめることを言葉と数を用いて記述する」ことに課題がある。〔5(3)〕
- ◆ 「示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるか判断できる」ことに課題がある。〔5(4)〕

## ② 課題から考えられる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べて4領域で全国を下回っています。中でも、4(2)「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する問題」、4(3)「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する問題」や4(4)「速さの意味について理解する問題」が全国と比べて、8.1ポイント、10.6ポイント、11.6ポイントと大きく下回っており、課題が見られます。
- そのために、例えば、速さの学習においては、速さが一定の場合には道のりと時間が比例関係にあることに気付いたりすることが大切であり、道のりが等しい場合には、時間が短いほど速さが速いということに気付くことができることなど、速さと道のりと時間の関係について児童自らがそれらの間にどのような関係が成り立つかをしっかりと理解する学習活動を繰り返し行う必要があります。日常生活の場면을式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが大切です。
- 全国的にも最も正答率が低かった問題は4(3)「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する」問題だが、岩見沢市は全国と比べて10.6ポイントも下回っています。速さなどの問題の解決に必要な条件を見だし、適切に使う学習活動の工夫や充実が考えられます。例えば二人の歩いた道のりが等しい場合はかかった時間で速さを比べることができるようにしたり、道のり÷時間で速さを求めることで二人の歩く速さを確認できるようにしたりするなど、2つの数量の関係に着目し、場面に応じて速さの比べ方を考察することが大切です。

(2) 小学校算数 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(公全国)	岩見沢市	(公道)	(公全国)
1(1)	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる	54.0	57.7	62.1	0.0	0.1	0.2
1(2)	はじめに持っていた折り紙の枚数を口枚としたときの、問題場面を表す式を選ぶ	数量の関係を、口を用いた式に表すことができるかどうかをみる	88.3	87.9	88.5	0.0	0.2	0.3
2(1)	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 $350 \times 16$ の積の求め方と答えを書く	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	50.6	53.8	56.9	4.3	3.6	3.4
2(2)	除数が $1/10$ になったときの商の大きさについて、正しいものを選ぶ	除数が小数である場合の除法において、除数と商の大きさの関係について理解しているかどうかをみる	66.2	65.5	69.1	1.2	1.2	1.3
3(1)	作成途中の直方体の見取図について、辺として正しいものを選ぶ	直方体の見取図について理解し、かくことができるかどうかをみる	82.6	84.2	85.5	0.6	0.6	0.6
3(2)	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる	67.8	69.2	71.3	0.6	0.7	0.8
3(3)	直径22cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く	球の直径の長さと同立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる	33.2	34.3	36.5	9.5	10.3	9.8
3(4)	五角柱の面の数を書き、そのわけを底面と側面に着目して書く	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	71.9	71.3	72.0	1.2	1.8	1.8
4(1)	$540 \div 0.6$ を計算する	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる	66.4	63.3	70.1	2.4	3.7	3.1
4(2)	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる	61.9	69.2	70.0	3.8	3.7	3.3
4(3)	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	20.4	26.1	31.0	3.8	2.4	2.4
4(4)	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く	速さの意味について理解しているかどうかをみる	42.5	48.1	54.1	6.3	5.1	4.6
5(1)	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる	77.1	78.6	80.8	2.2	1.8	1.8
5(2)	示されたデータから、1960年代のC市について、開花日が3月だった年と4月だった年がそれぞれ何回あったかを読み取り、表に入る数を書く	簡単な二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理することができるかどうかをみる	70.4	71.7	73.3	4.5	4.0	3.9
5(3)	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる	38.7	42.0	44.0	13.8	13.5	12.6
5(4)	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる	41.3	46.5	49.3	6.1	4.1	4.0

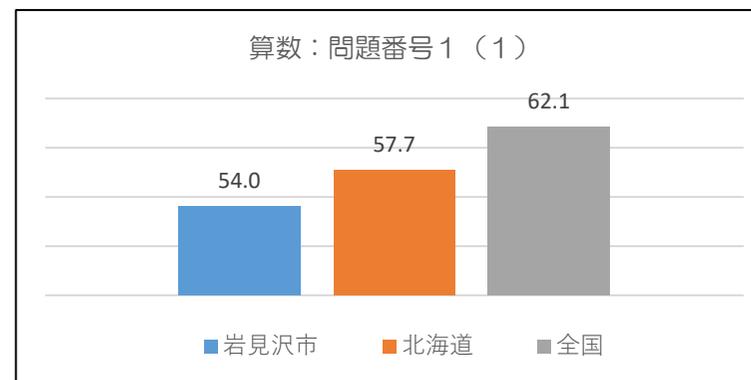
※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合  
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

### (3) 小学校算数 各教科の領域において全国と比べ3ポイント以上差がある問題

#### 問題番号1 (1)

問題の概要	問題場面の数量の関係を捉え、持っている折り紙の枚数を求める式を選ぶ
出題の趣旨	問題場面の数量の関係を捉え、式に表すことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
54.0	57.7	62.1	-8.1



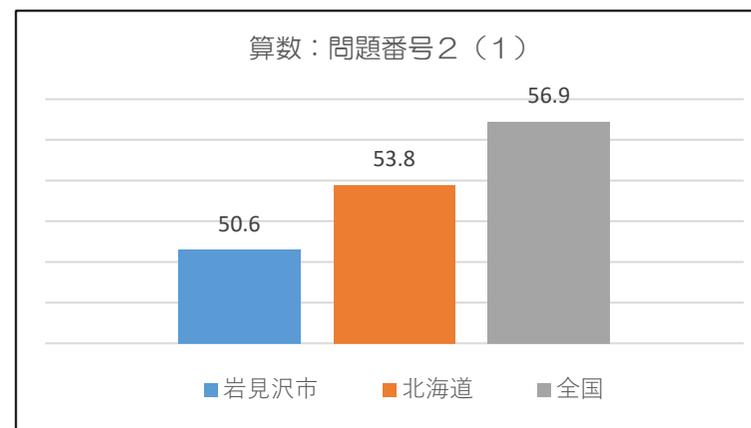
(課題)

全国と比べ、「数量の関係を捉え、式に表すことができる」ことができていない児童が多い。問題の文脈に沿って図などに表すことで数量の関係を捉え、式に表すことが大切である。多くの誤答では、「少ない」という言葉から誤って減法を用いていると考え、式を立てたものと考えられる。そのため、問題の文脈を算数的に正しく捉えて立式することの指導で理解を深める必要がある。

#### 問題番号2 (1)

問題の概要	$350 \times 2 = 700$ であることを基に、 $350 \times 16$ の積の求め方と答えを書く
出題の趣旨	計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
50.6	53.8	56.9	-6.3



(課題)

全国と比べ、「計算に関して成り立つ性質を活用して、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する」ことができていない児童が多い。「問題場面の数量の関係を捉え、計算を工夫して結果について考察することができるか」の問題だが、要点となる性質などは理解しているが、それを発展し活用させて答えを導くことができていない。

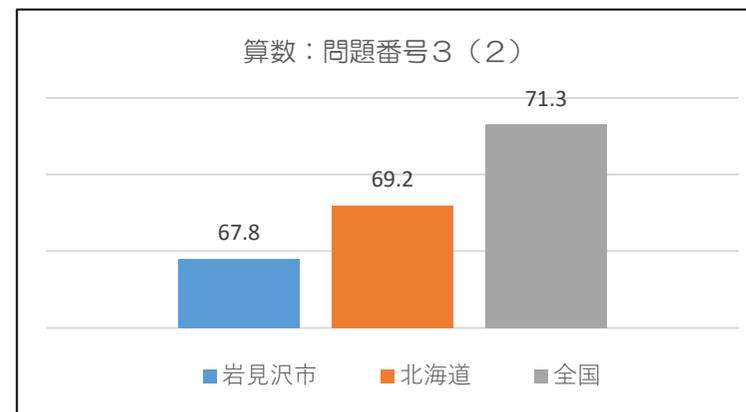
### 問題番号3 (2)

問題の概要	円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選ぶ
出題の趣旨	直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
67.8	69.2	71.3	-3.5

(課題)

全国と比べ、「円の直径の長さ、円周の長さ、円周率の関係について理解する」ことができていない児童が多い。本設問では、円柱の展開図をかく場面において、底面となる円の直径や円周の長さ、円周率の関係についての理解を問われているが、直径と円周の長さの関係を正しく理解できていない。



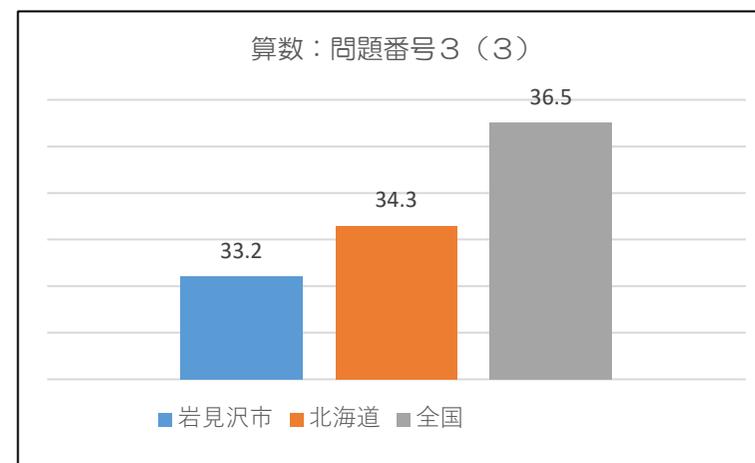
### 問題番号3 (3)

問題の概要	直径22 cmのボールがぴったり入る箱の体積を求める式を書く
出題の趣旨	球の直径の長さ、立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
33.2	34.3	36.5	-3.3

(課題)

全国と比べ、「球の直径と立方体の一辺の長さの関係から、立方体の体積の求め方を式に表す」ことができていない児童が多い。本設問では、図形を構成する要素に着目し、図形の体積の求め方を考えることが求められているが、多い誤答では球の直径と立方体の一辺の長さが等しくなっていることを正しく捉えられていない。



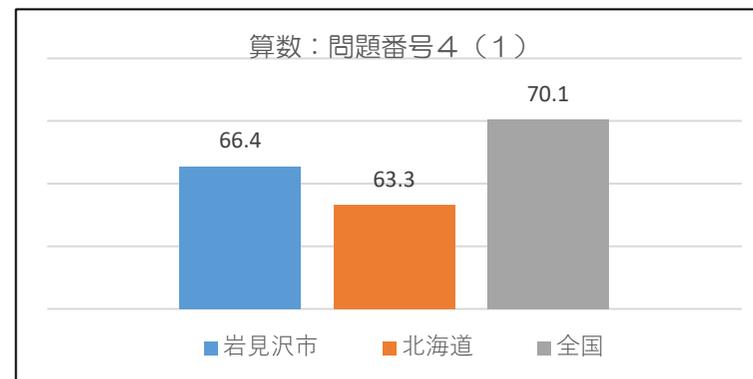
### 問題番号4 (1)

問題の概要	540 ÷ 0.6を計算する
出題の趣旨	除数が小数である場合の除法の計算をすることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
66.4	63.3	70.1	-3.7

(課題)

全国と比べ、「除数が小数である場合の除法の計算をする」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、除数のみを10倍して整数にし、被除数はそのままに計算しているため、除数がある場合の除法の計算が正しく理解されるようにする必要がある。



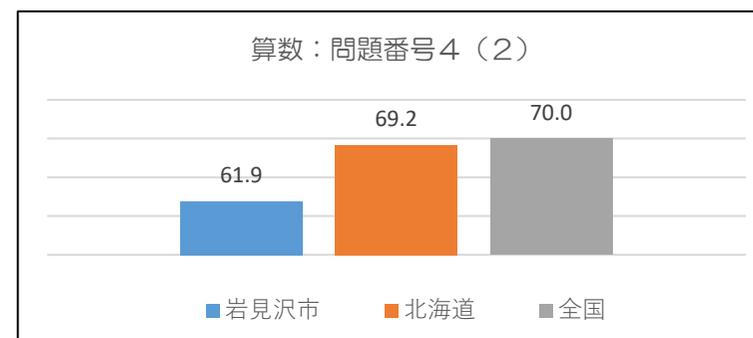
### 問題番号4 (2)

問題の概要	3分間で180m歩くことを基に、1800mを歩くのにかかる時間を書く
出題の趣旨	速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
61.9	69.2	70.0	-8.1

(課題)

全国と比べ、「速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する」ことができていない児童が多い。本設問では速さが一定であることから、時間と道のりが比例関係であり、道のりと時間と速さの関係を用いて答えを求められているが、多くの誤答では速さと進む道のりを誤って理解し、時間を求めていることから、これらの関係を正しく理解することが必要である。



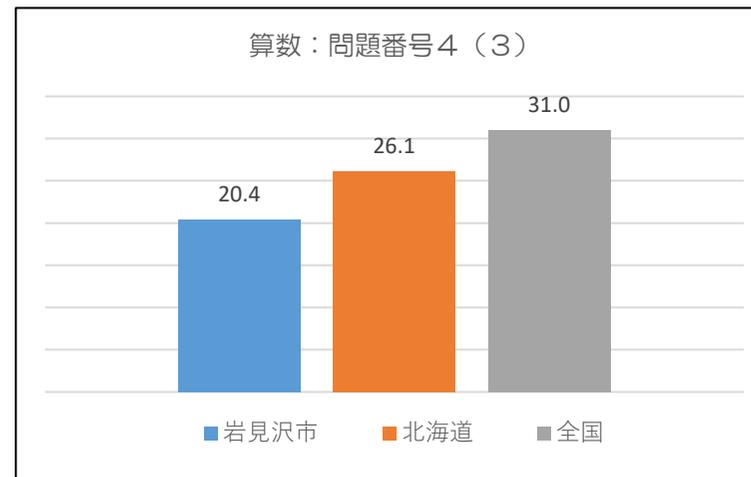
### 問題番号4（3）

問題の概要	家から学校までの道のりが等しく、かかった時間が異なる二人の速さについて、どちらが速いかを判断し、そのわけを書く
出題の趣旨	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
20.4	26.1	31.0	-10.6

（課題）

全国と比べ、「道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数で記述する」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、二人のどちらが速いのか、また二人の歩いた道のりが等しいことも理解しているが、かかった時間が短いことについては捉えられていないため、速さなど単位量当たりの大きさについて理解を深め、日常の事象の解決に活用することが大切である。



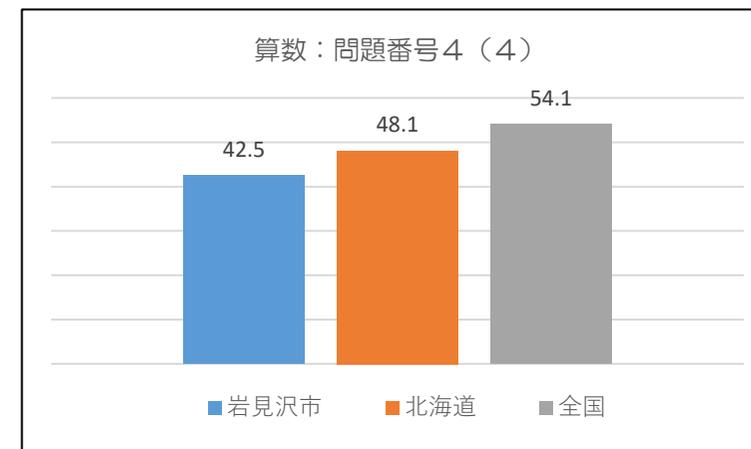
### 問題番号4（4）

問題の概要	家から図書館までの自転車の速さが分速何mかを書く
出題の趣旨	速さの意味について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
42.5	48.1	54.1	-11.6

（課題）

全国に比べ、「速さの意味について理解する」ことができていない児童が多い。本設問では、問題の場面から道のりと時間を読み取り、それらを基にして速さを求めるのだが、問題から道のりを誤って捉えたため、日常の場面に対応して理解することが必要である。



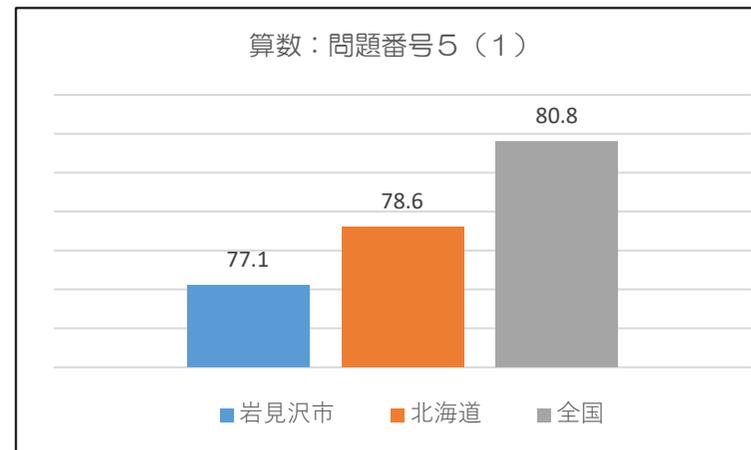
### 問題番号5（1）

問題の概要	円グラフから、2023年の桜の開花日について、4月の割合を読み取って書く
出題の趣旨	円グラフの特徴を理解し、割合を読み取ることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
77.1	78.6	80.8	-3.7

（課題）

全国に比べ、「円グラフの特徴を理解し、割合を読み取る」ことができている児童が多い。多くの誤答では、目盛りを数え間違えていると思われるため、円グラフの一目盛りの大きさを正しく捉えるなど、円グラフの特徴を理解して正しくデータを読み取ることが大切である。



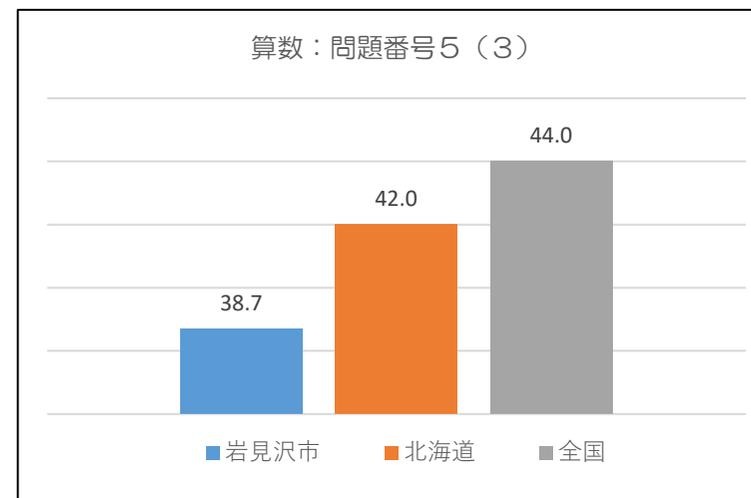
### 問題番号5（3）

問題の概要	折れ線グラフから、開花日の月について、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代を読み取り、その年代について3月の回数と4月の回数の違いを書く
出題の趣旨	折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
38.7	42.0	44.0	-5.3

（課題）

全国と比べ、「折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述する」ことができている児童が多い。目的に応じてのデータの読み取りが正しくできてなく、解答に必要な数値を得ていないため、データの分析に関わる数学的活動を通して、必要な資質能力を身に付けることが大切である。



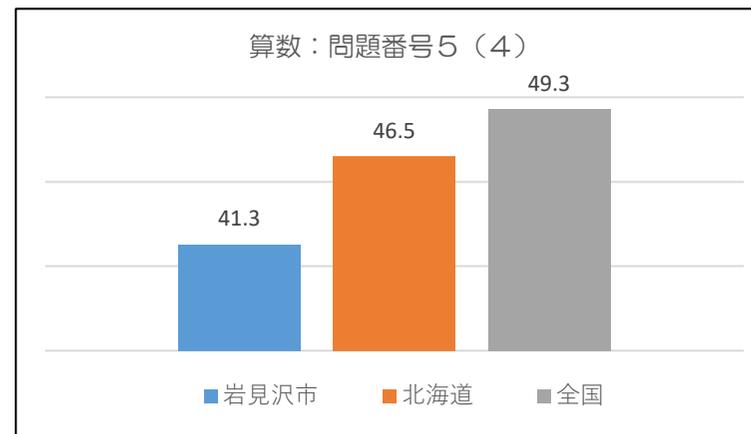
### 問題番号5（4）

問題の概要	示された桜の開花予想日の求め方を基に、開花予想日を求める式を選び、開花予想日を書く
出題の趣旨	示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
41.3	46.5	49.3	-8.0

（課題）

全国と比べ、「示された情報を基に、必要な数値を数理的に処理し、判断の根拠を式に表す」ことができていない児童が多い。多くの誤答では、表から読み取った数値や示された情報を基にしての計算が正しくないため、数理的に判断できていないことが多い。



### 3ポイント以上差がある問題の領域等（11問）

問題番号	学習指導要領の領域	差
1(1)	A 数と計算	-8.1
2(1)	A 数と計算	-6.3
3(2)	B 図形	-3.5
3(3)	B 図形	-3.3
4(1)	A 数と計算	-3.7
4(2)	C 変化と関係	-8.1
4(3)	C 変化と関係	-10.6
4(4)	C 変化と関係	-11.6
5(1)	D データの活用	-3.7
5(3)	D データの活用	-5.3
5(4)	D データの活用	-8.0

内容別	知識・技能	5問
	思考・判断・表現	6問

【考察】  
 全国と比べて3ポイント以上差がある問題について、学習指導要領の領域別に見ると（A数と計算）（C変化と関係）（Dデータの活用）でそれぞれ3問ずつ、（B図形）で2問となっている。4領域で全国を下回っていて、特に（C変化と関係）は昨年度から大きく下降して、ポイントも個別の問題で10ポイント前後も差ができています。中でも速さや道のり、時間の学習について、大きな差ができています。単位量当たりの大きさの学習と併せて、適切な学習活動の中で定着を図ることが求められる。

Ⅲ 教科に関する調査

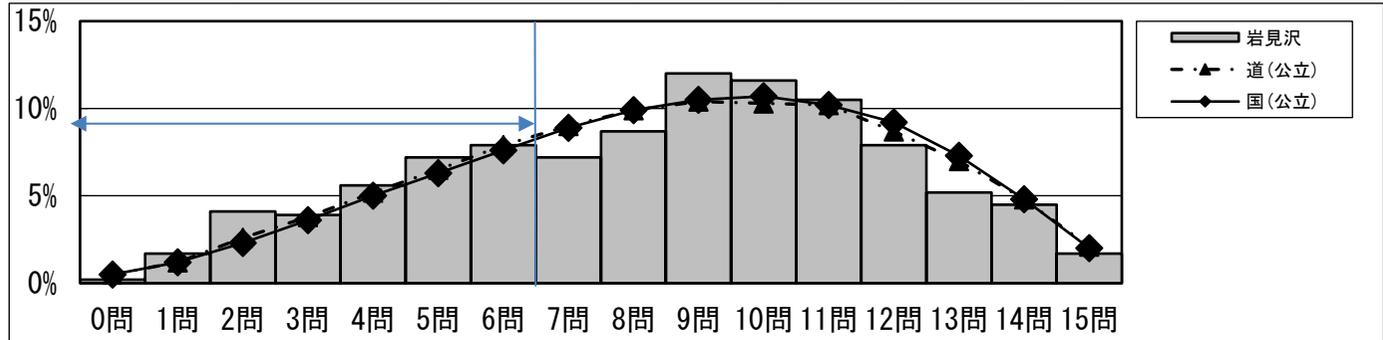
3 中学校国語

【概要】  
 ○ 平均正答率は56【55.9】%  
 ○ 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-2.2ポイント

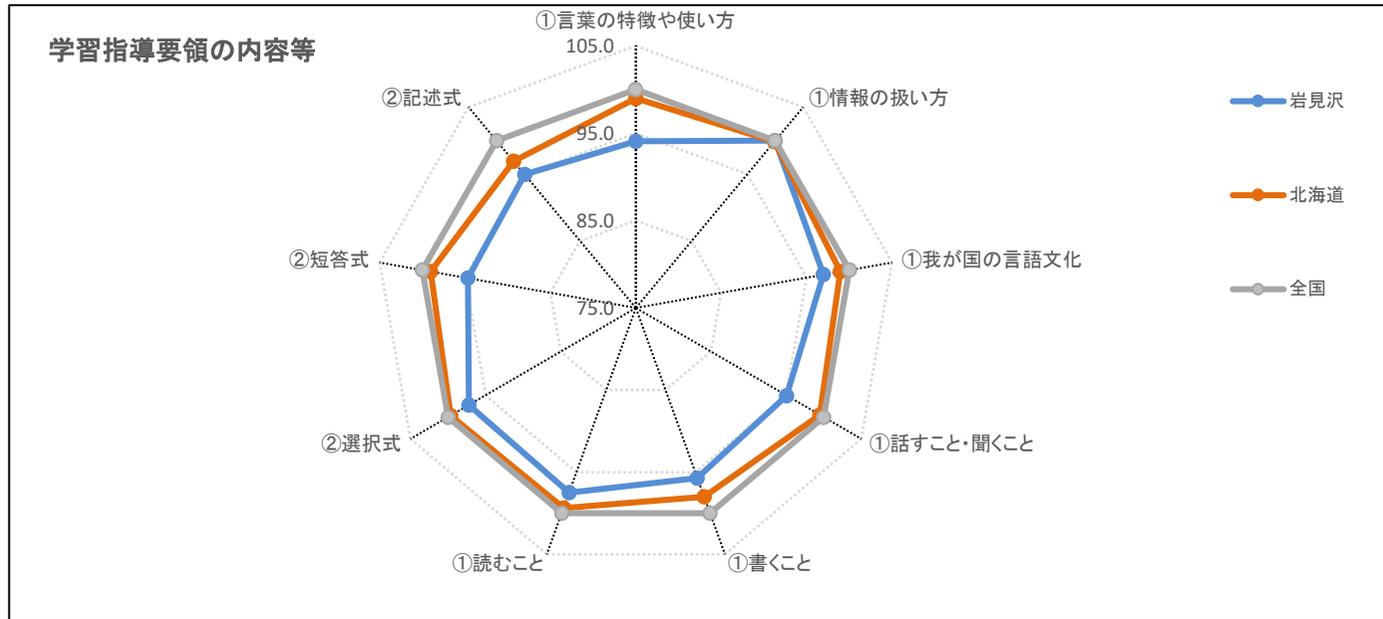
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢市	516	8.4 / 15	56	9.0	3.4
北海道(公立)	33,614	8.6 / 15	58	9.0	3.4
全国(公立)	875,574	8.7 / 15	58.1	9.0	3.4

■ 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

- 割合：岩見沢 30.6%  
全国 26.5%
- 正答数：15問中6問以下
- 全国との差：4.1ポイント多い



正答数分布グラフ(横軸: 正答数、縦軸: 割合)



正答数	割合(%)			
	生徒数	岩見沢	道(公立)	国(公立)
15問	9	1.7	2.1	2.0
14問	23	4.5	4.8	4.8
13問	27	5.2	7.0	7.3
12問	41	7.9	8.7	9.2
11問	54	10.5	10.2	10.2
10問	60	11.6	10.3	10.7
9問	62	12.0	10.4	10.5
8問	45	8.7	9.9	9.9
7問	37	7.2	9.0	8.9
6問	41	7.9	7.9	7.6
5問	37	7.2	6.5	6.3
4問	29	5.6	5.2	5.0
3問	20	3.9	3.8	3.6
2問	21	4.1	2.6	2.3
1問	9	1.7	1.2	1.2
0問	1	0.2	0.5	0.5

※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	11.0問	11.0問
◇ 第2四分位	9.0問	9.0問	9.0問
▽ 第1四分位	6.0問	6.0問	6.0問

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】  
 四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と同数である。  
 生徒数の割合は全国と比べ、「正答数の多い層」では、少ない。また、「正答数の少ない層」では、多い。

## (1) 中学校国語 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

### ① 課題等

#### 〔思考力、判断力、表現力等〕

##### 【話すこと・聞くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.1で、4.9ポイント下回っている。令和5年度は96.7で、令和4年度は101.3であり、引き続き下降している。
- ・問題番号では、1一、1二、1四の3問が該当し、全て全国を下回っている。
- ◆「必要に応じて質問しながら話の内容を捉える」「資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話す」「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」ことに課題がある。〔1一、1二、1四〕

##### 【書くこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.7で4.3ポイント下回っている。令和5年度は99.2で、令和4年度は92.5であり、下降している。
- ・問題番号では、3一、3四が該当し、両方とも全国を下回っている。
- ◆「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」ことに課題がある。〔3一〕
- ◆「表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する」ことに課題がある。〔3四〕

##### 【読むこと】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は97.5で2.5ポイント下回っている。令和5年度は97.3で、令和4年度は101.9であり、昨年度とほぼ同じである。
- ・問題番号では2一、2三、2四、4二が該当し、全て全国を下回っているが、2三は0.9ポイント、2四は0.7ポイントで全国と同様である。
- ◆「文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈する」「短歌の内容について、描写を基に捉える」ことに課題がある。〔2一、4二〕

#### 〔知識及び技能〕

##### 【言語の特徴や使い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は94.1で5.9ポイント下回っている。令和5年度は96.7で、令和4年度は101.5であり、下降傾向が続いている。
- ・問題番号では、3二、3三、4一が該当し、3二と3三は全国を下回っているが、4一は全国を上回っている。
- ◇「短歌の表現の技法について理解する」ことはできている。〔4一〕
- ◆「文の成分の順序や照応について理解する」「文脈に即して漢字を正しく書く」ことに課題がある。〔3二、3三〕

##### 【情報の扱い方に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は全国と比べて同じである。令和5年度は101.4で、令和4年度は99.4であり、ほぼ同じ状況を維持している。
- ・問題番号では、1三、2二が該当し、2二は全国を上回っているが、1三は下回っている。
- ◇「具体と抽象など情報と情報との関係について理解する」ことは全国と比べてできている。〔2二〕

##### 【我が国の言語文化に関する事項】

- ・全国を100とした時、岩見沢市の状況は97.0で3.0ポイント下回っている。令和5年度は99.7で、令和4年度は99.4であり、昨年度より下がっている。
- ・問題番号では、4三が該当し、全国を下回っている。
- ◆「行書の特徴を理解する」ことに課題がある。〔4三〕

## ② 課題から考えられる指導改善のポイント

- 本市では、正答率がもっとも低かった問題は[思考力、判断力、表現力等]「読むこと」の2ーで、「文章と図を結び付け、その関係を踏まえて内容を理解する」ことに課題が見られます。これは、全国的にも同じく正答率が最も低かった問題です。
- そのため、「構造と内容の把握」「精査・解釈」「考えの形成、共有」に関する各指導事項が示す資質・能力が身に付くよう、意図的・計画的に指導を重ねていくことが大切です。説明的な文章を読む時には、文章の中心部分とそれを支える付加的な部分との組み合わせであるとか、事実を述べた部分と意見を述べた部分とで構成されているなど、説明的な文章の特徴を踏まえて読み、叙述を基にその構造を適切に捉えることが大切です。また、生徒の理解や解釈が適切であるか検討し、必要に応じて修正したり更新したりすることができるよう指導することが必要です。図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ること、図表などを示すことで文章にどのような効果が生まれているのかを考えることが重要です。このように、文章と図表などを結び付け、内容の理解に生かすことが求められます。

(2) 中学校国語 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(公全国)	岩見沢市	(公道)	(公全国)
1一	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができるかどうかをみる	60.3	63.6	63.2	0.0	0.4	0.4
1二	話合いの中で発言する際に指し示している資料の部分として適切な部分を○で囲む	資料を用いて、自分の考えが分かりやすく伝わるように話すことができるかどうかをみる	67.1	68.9	68.5	5.4	3.4	3.5
1三	話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	41.3	43.8	44.0	0.0	0.4	0.5
1四	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	40.5	42.9	44.7	11.2	10.7	9.9
2一	本文中の図の役割を説明したものとして適切なものを選択する	文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することができるかどうかをみる	34.3	36.9	36.3	0.2	0.5	0.5
2二	本文中の情報と情報との関係を説明したものとして適切なものを選択する	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる	77.9	75.2	75.2	0.0	0.5	0.6
2三	本文中に示されている二つの例の役割をまとめた文の空欄に入る言葉として適切なものをそれぞれ選択する	文章の全体と部分との関係に注意しながら、主張と例示との関係を捉えることができるかどうかをみる	63.6	64.8	64.5	0.8	0.6	0.6
2四	本文に書かれていることを理解するために、着目する内容を決めて要約する	目的に応じて必要な情報に着目して要約することができるかどうかをみる	41.9	42.4	42.6	9.7	9.5	8.4
3一	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる	77.7	81.0	81.4	0.0	0.6	0.7
3二	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる	47.7	52.2	53.8	0.2	1.0	1.0
3三	漢字を書く(みちたりた)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	61.4	68.4	68.8	16.3	11.5	10.2
3四	表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現の効果を説明する	表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる	47.3	46.9	49.3	20.5	18.2	15.0
4一	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する	表現の技法について理解しているかどうかをみる	57.9	55.2	54.9	1.6	2.4	1.8
4二	短歌に詠まれている情景の時間帯の違いを捉え、時間の流れに沿って短歌の順番を並べ替える	短歌の内容について、描写を基に捉えることができるかどうかをみる	46.9	46.5	48.3	4.7	4.4	3.4
4三	行書の特徴を踏まえた書き方について説明したものとして適切なものを選択する	行書の特徴を理解しているかどうかをみる	73.3	74.8	75.6	1.9	3.1	2.3

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合  
 ※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

### (3) 中学校国語 各教科の領域において正答率が全国と比べ3ポイント以上できなかった問題

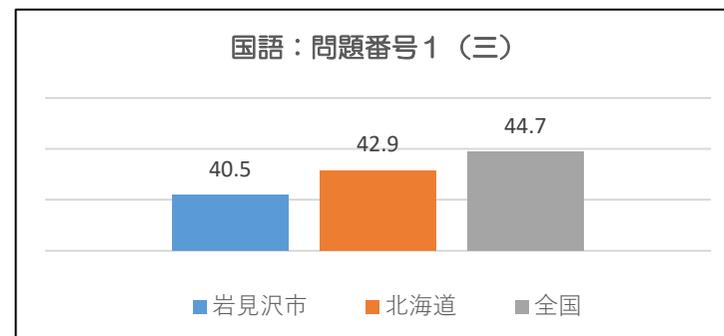
#### 問題番号1四

問題の概要	話合いの話題や発言を踏まえ、「これからどのように本を選びたいか」について自分の考えを書く
出題の趣旨	話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
40.5	42.9	44.7	-4.2

(課題)

全国と比べ、「話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、話合いの話題や話題を捉えて自分の考えをまとめることができているが、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめていない。



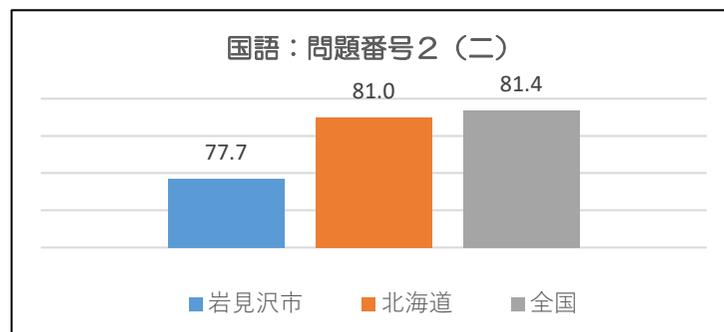
#### 問題番号3一

問題の概要	物語を書くために集めた材料を取捨選択した意図を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
77.7	81.0	81.4	-3.7

(課題)

全国と比べ、「目的や意図に応じて、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、伝えたいことが明確に捉えられていない



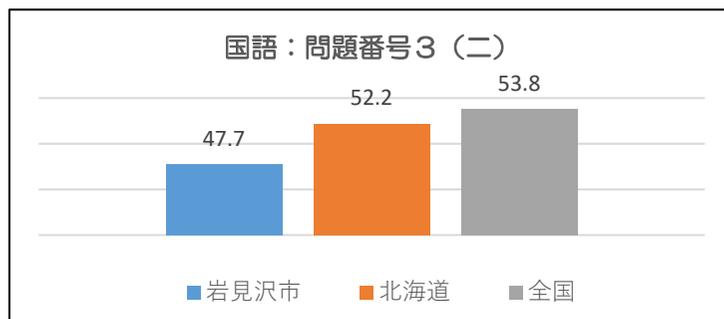
#### 問題番号3二

問題の概要	物語の下書きについて、文の中の語句の位置を直した意図を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	文の成分の順序や照応について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
47.7	52.2	53.8	-6.1

(課題)

全国と比べ、「文の成分の順序や照応について理解する」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、文の中の語句と部分の関係が明確になると理解しておらず、語句と語句の関係を誤って捉えていることなど、文の成分について十分に理解できていない。



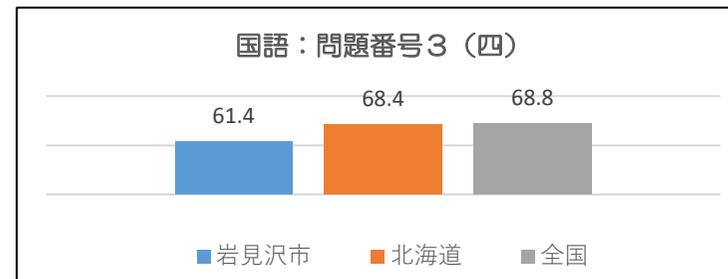
### 問題番号3三

問題の概要	漢字を書く（みちたりた）
出題の趣旨	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
61.4	68.4	68.8	-7.4

（課題）

全国に比べ、「文脈に即して漢字を正しく書く」ことができていない生徒が多い。学年別漢字配当表に示されている漢字のもつ意味を考えて正しく使うことを指導する必要がある。



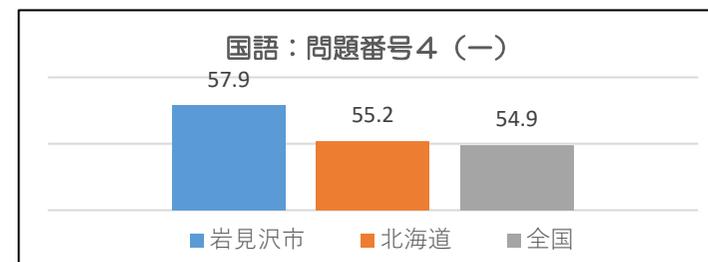
### 問題番号4一

問題の概要	短歌に用いられている表現の技法を説明したものとして適切なものを選択する
出題の趣旨	表現の技法について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
57.9	55.2	54.9	3.0

（成果）

全国と比べ、「短歌の表現の技法について理解している」ことができていない生徒が多い。設問の短歌の一部に、「体言止め」が用いられていることを理解している。



### 3ポイント以上差がある問題の領域等（4問）

問題番号	学習指導要領の内容（領域）	差
1四	思考力・判断力・表現力等(A 話す・聞くこと)	-4.2
3一	思考力・判断力・表現力等(B 書くこと)	-3.7
3二	知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	-6.1
3三	知識及び技能（言葉の特徴や使い方に関する事項）	-7.4
内容別	知識及び技能	2問
	思考力・判断力・表現力等	2問

【考察】

全国と比べて3ポイント以上差がある問題は、学習指導要領の内容別に見ると、【知識及び技能】を問う問題が2問、【思考力・判断力・表現力等】を問う問題が2問となっている。【知識及び技能】を問う問題の方が全国との差が大きい。特に言葉の特徴や使い方に関する事項では、漢字の正しい使い方や文の成分の順序や照応についての理解があまりできていない。

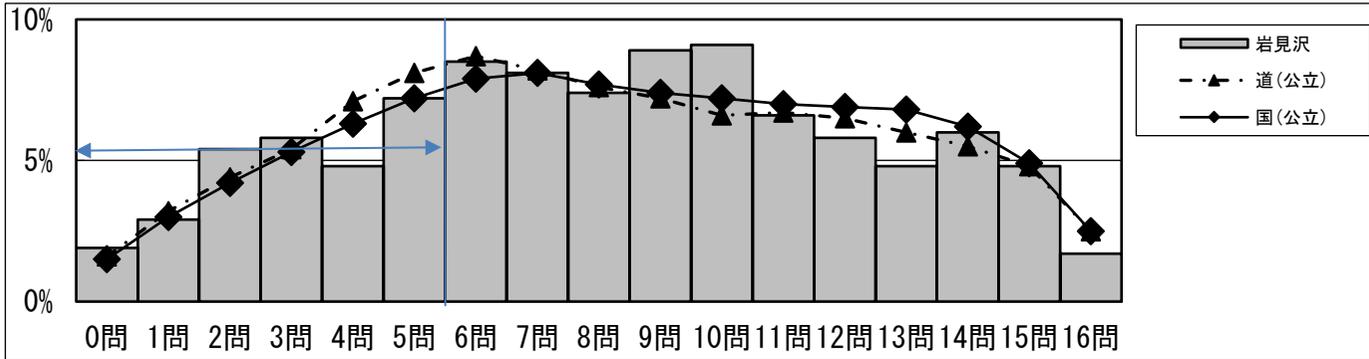
Ⅲ 教科に関する調査

4 中学校数学

【概要】

- 平均正答率は51【50.9】%
- 平均正答率の小数值での比較では、全国との差は、-1.6ポイント

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
岩見沢	516	8.1 / 16	51	8.0	4.1
北海道(公立)	33,598	8.2 / 16	51	8.0	4.1
全国(公立)	875,952	8.4 / 16	52.5	8.0	4.1



正答数分布グラフ(横軸:正答数、縦軸:割合)

■ 全国の「正答数の少ない層」と同じ範囲に含まれる生徒の割合

- 割合: 岩見沢 28.0%  
全国 27.5%
- 正答数: 15問中5問以下
- 全国との差: 0.5ポイント少ない

正答数	割合(%)			
	生徒数	岩見沢	道(公立)	国(公立)
16問	9	1.7	2.5	2.5
15問	25	4.8	4.8	4.9
14問	31	6.0	5.5	6.2
13問	25	4.8	6.0	6.8
12問	30	5.8	6.5	6.9
11問	34	6.6	6.7	7.0
10問	47	9.1	6.6	7.2
9問	46	8.9	7.2	7.4
8問	38	7.4	7.6	7.7
7問	42	8.1	8.2	8.1
6問	44	8.5	8.7	7.9
5問	37	7.2	8.1	7.2
4問	25	4.8	7.1	6.3
3問	30	5.8	5.4	5.3
2問	28	5.4	4.4	4.2
1問	15	2.9	3.2	3.0
0問	10	1.9	1.6	1.5

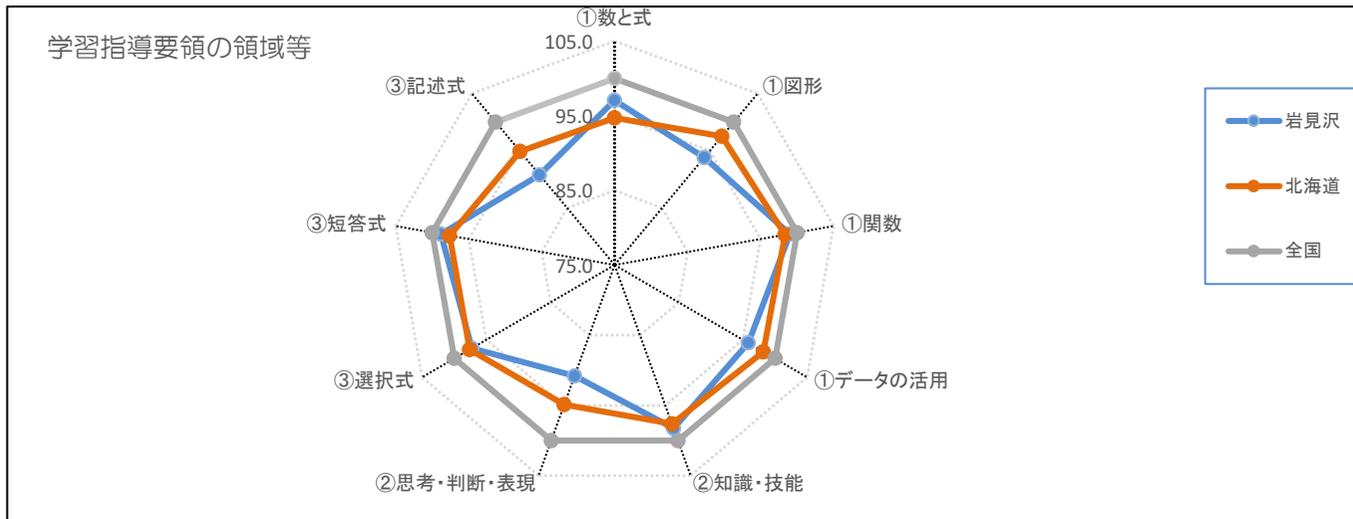
※今回の調査での四分位は以下のとおりでした。

	岩見沢	道(公立)	国(公立)
△ 第3四分位	11.0問	12.0問	12.0問
◇ 第2四分位	8.0問	8.0問	8.0問
▽ 第1四分位	5.0問	5.0問	5.0問

■ は、全国の「第1四分位」未満の正答数の生徒の割合

【四分位の状況】

四分位における各分位の正答数については、岩見沢市は全国と比べ、第1四分位の正答数が1問多い。生徒数の割合は全国と比べ「正答数の多い層」では少ない。また、「正答数の少ない層」はやや少ない。



## (1) 中学校数学 調査結果から見た課題等と指導改善のポイント

### ① 課題等

#### 【数と式】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は、97.1で2.9ポイント下回っている。令和5年度は102.3で令和4年度は94.8であり、下降している。
- 問題番号では1、2、6(1)、6(2)、6(3)の5問が該当し、6(3)は全国を上回り、1と2と6(1)は全国とほぼ同じで6(2)は下回っている。
- ◇「統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明する」ことはできている。〔6(3)〕
- ◇「連続する2つの偶数を、文字を用いた式で表す問題」や「等式を目的に応じて変形する問題」はできている。〔1、2〕
- ◇「問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができる」ことはできている。〔6(1)〕
- ◆「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」ことに課題がある。〔6(2)〕

#### 【図形】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は93.8で6.2ポイント下回り、令和5年度は99.7で、令和4年度は99.3であり、下降している。
- 問題番号では、3、9(1)、9(2)が該当し、9(2)は全国を上回っているが、3と9(1)は全国を下回っている。
- ◇「事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見出す」ことはできている〔9(2)〕
- ◆「回転移動について理解している」ことに課題がある。〔3〕
- ◆「筋道を立てて考え、証明する」ことに課題がある。〔9(1)〕

#### 【関数】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は99.0で1.0ポイント下回り、令和5年度は106.6で、令和4年度は102.1であり、前年度より下降している。
- 問題番号では、4、8(1)、8(2)、8(3)が該当し、8(1)と8(3)が全国を上回り、4と8(2)は全国とほぼ同じである。
- ◇「2つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈する」と「グラフの傾きや交点の意味を、事象に即して解釈する」ことは全国と比べ、できている。〔8(1)、8(3)〕
- ◇「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する」ことはできている。〔8(2)〕
- ◇「一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解する」ことはできている。〔4〕

#### 【データの活用】

- 全国を100とした時、岩見沢市の状況は95.9で4.1ポイント下回っている。令和5年度は91.8で、令和4年度は101.1であり、前年度より上昇している。
- 問題番号では、5、7(1)、7(2)、7(3)が該当し、5を除いて全国を下回っていて、5は全国を0.9ポイント上回っている。
- ◇「簡単な場合について、確率を求めることができる」ことはできている。〔5〕
- ◆「与えられたデータから最頻値をもとめることができる」ことに課題がある。〔7(1)〕
- ◆「複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する」ことや「複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較する」ことに課題がある。〔7(2)、7(3)〕

## ② 課題から見られる指導改善のポイント

- 本市では、全国と比べ、全ての領域で正答率が低くなっています。特に、昨年度からの比較では、「B図形」の全国との差が広がり、「Dデータの活用」の正答率が上がって差が少なくなりつつあります。
- 全国と比べて大きく下回っているのは「A数と式」領域の設問6(2)で「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」問題で5.5ポイントの差がついています。「数に関する事象」を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想したり、その事柄が成り立つ理由について考えさせ説明したりするなど段階をふまえた丁寧な指導が求められます。また、問題の条件を変えるなどして総合的・発展的に考察し数学的に表現できるようにすることが大切です。また、「B図形」領域の設問9(1)で「図形の考察で、筋道を立てて証明する」問題で同じく5.5ポイントの差となっています。この問題は全国的にも正答率が低く、岩見沢市では、さらに低くなっていることから、問題の趣旨を理解し「根拠をもって論理的に考察する」「論理的に考察して数学的な表現を用いて説明する」ことなどを繰り返し丁寧に指導することが求められます。

(2) 中学校数学 問題別集計結果

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	正答率(%)			無解答率(%)		
			岩見沢市	(公道)	(公全国)	岩見沢市	(公道)	(公全国)
1	nを整数とすると、連続する二つの偶数を、それぞれnを用いた式で表す	連続する二つの偶数を、文字を用いた式で表すことができるかどうかをみる	34.5	31.4	34.8	16.1	17.2	14.3
2	等式 $6x + 2y = 1$ をyについて解く	等式を目的に応じて変形することができるかどうかをみる	51.0	47.1	52.5	9.9	11.8	9.7
3	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ	回転移動について理解しているかどうかをみる	64.7	67.0	68.3	0.2	0.3	0.3
4	一次関数 $y = ax + b$ について、 $a = 1$ 、 $b = 1$ のときのグラフに対して、bの値を変えずに、aの値を大きくしたときのグラフを選ぶ	一次関数について、式とグラフの特徴を関連付けて理解しているかどうかをみる	62.4	64.0	65.3	0.6	0.6	0.7
5	2枚の10円硬貨を同時に投げるとき、2枚とも裏が出る確率を求める	簡単な場合について、確率を求めることができるかどうかをみる	74.0	74.7	73.1	6.0	4.6	4.2
6(1)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に3、-5を入れるとき、その和である□に入る整数を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉え、正の数と負の数の加法の計算ができるかどうかをみる	88.8	89.4	90.2	2.9	2.9	2.5
6(2)	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる	30.4	34.5	35.9	29.8	26.9	23.5
6(3)	正四面体の各頂点に○を、各辺に□をかけた図において、○に入れた整数の和と□に入る整数の和について予想できることを説明する	統合的・発展的に考え、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	43.2	39.5	41.8	32.6	32.8	29.6
7(1)	障害物からの距離が10cmより小さいことを感知して止まる設定にした車型ロボットについて実験した結果を基に、10cmの位置から進んだ距離の最頻値を求める	与えられたデータから最頻値を求めることができるかどうかをみる	71.7	73.8	74.3	8.1	6.9	5.8
7(2)	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	22.5	24.4	25.9	34.1	33.7	29.4
7(3)	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる	44.8	45.1	48.5	0.2	0.9	0.9
8(1)	ストーブの使用時間と灯油の残量の関係を表すグラフとy軸との交点Pのy座標の値が表すものを選ぶ	二つのグラフにおけるy軸との交点について、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	84.1	82.6	83.4	0.2	0.8	0.8
8(2)	18Lの灯油を使いきるまでの「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおおよそ何時間になるかを求める方法を、式やグラフを用いて説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	16.7	16.2	17.1	20.0	20.7	16.4
8(3)	結衣さんがかけたグラフから、18Lの灯油を使い切るような「強」と「弱」のストーブの設定の組み合わせとその使用時間を書く	グラフの傾きや交点の意味を事象に即して解釈することができるかどうかをみる	77.3	75.8	76.9	3.3	4.6	3.8
9(1)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ = PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる	20.3	24.5	25.8	39.9	37.6	33.6
9(2)	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさについていえることの説明として正しいものを選ぶ	事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる	28.3	26.6	26.7	2.9	4.7	4.5

※岩見沢市の平均正答率が全国より「上回る」、無解答率が「下回る」場合

※岩見沢市の平均正答率が全国より「下回る」、無解答率が「上回る」場合

(3) 中学校数学 各教科の領域において正答率が全国と比べ3ポイント以上差がある問題

【B 図形】

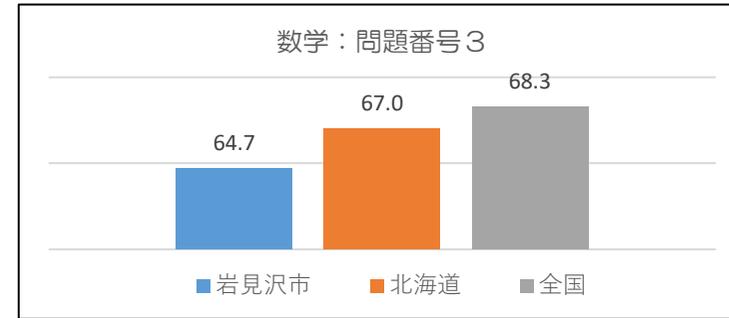
問題番号3

問題の概要	正方形が回転移動したとき、回転前の正方形の頂点に対応する頂点を、回転後の正方形から選ぶ
出題の趣旨	回転移動について理解しているかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
64.7	67.0	68.3	-3.6

(課題)

全国と比べ、「回転移動について理解する」ことができていない生徒が多い。多くの誤答は、図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の頂点の対応を読み取ることができなかったと考えられる。



【A 数と式】

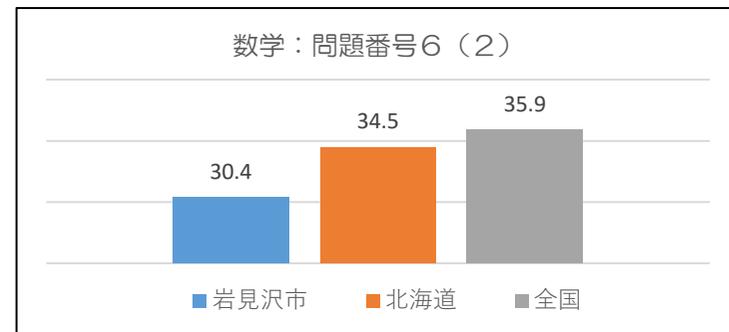
問題番号6 (2)

問題の概要	正三角形の各頂点に○を、各辺に□をかいた図において、□に入る整数の和が○に入れた整数の和の2倍になることの説明を完成する
出題の趣旨	目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
30.4	34.5	35.9	-5.5

(課題)

全国と比べ、「目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する」ことができていない生徒が多い。本設問では、計算した式を変形して整数の和であることを記述し、それが2倍であることを説明する必要があるが、多くの誤答では根拠とそれによって成り立つ事柄を記述できていないか、その根拠が誤っている。



【D データの活用】

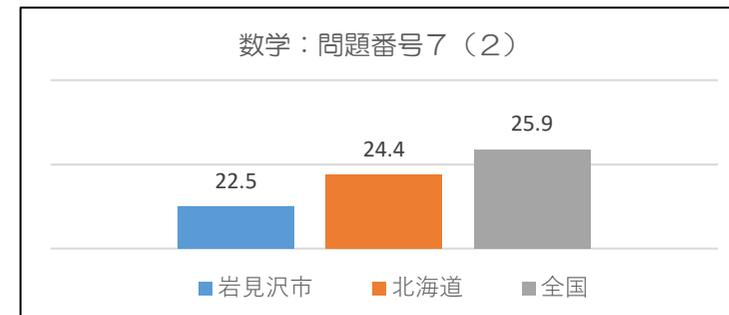
問題番号7 (2)

問題の概要	車型ロボットについて「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、5つの箱ひげ図を比較して説明する
出題の趣旨	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
22.5	24.4	25.9	-3.4

(課題)

全国と比べ、「データの分布の傾向から、ある事柄が成り立つ理由を数学的な表現を用いて説明する」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、根拠となる事柄を明確に捉えられてなかったり、数学的に判断できていないことが見受けられる。



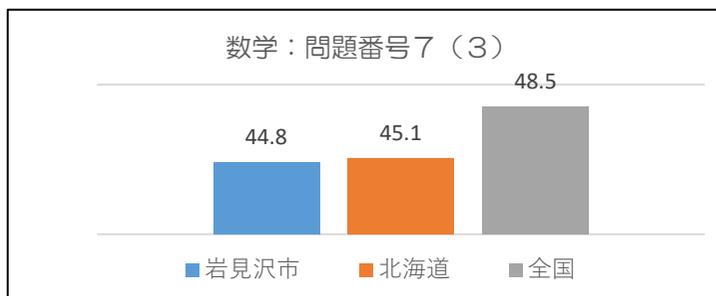
問題番号7(3)

問題の概要	車型ロボットについて、障害物からの距離の設定を変えて調べたデータの分布から、四分位範囲について読み取れることとして正しいものを選ぶ
出題の趣旨	複数の集団のデータの分布から、四分位範囲を比較することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
44.8	45.1	48.5	-3.7

(課題)

全国と比べ、「データの分布について数学的活動を通して、四分位範囲を比較する」ことができていない生徒が多い。多くの誤答では、データの分布から範囲を比較できていなかったり、四分位範囲を正しく理解していないと考えられる。



【B 図形】

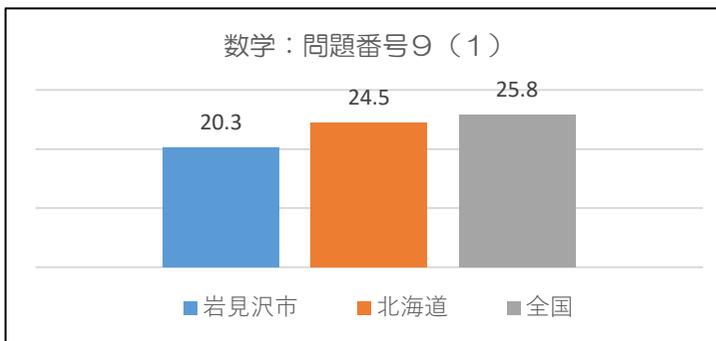
問題番号9(1)

問題の概要	点Cを線分AB上にとり、線分ABについて同じ側に正三角形PACとQCBをつくるとき、 $AQ=PB$ であることを、三角形の合同を基にして証明する
出題の趣旨	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる

岩見沢市	北海道	全国	差
20.3	24.5	25.8	-5.5

(課題)

全国と比べ、「図形の合同について、筋道を立てて考え、証明する」ことができていない生徒が多い。本設問では、図形の合同について事柄が成り立つ理由を数学的な表現で説明するのを求められているが、多くの誤答ではそれぞれの根拠の記述の表現が十分ではない。



3ポイント以上差がある問題の領域等(5問)

問題番号	学習指導要領の領域	差
3	B 図形	-3.6
6(2)	A 数と式	-5.5
7(2)	D データの活用	-3.4
7(3)	D データの活用	-3.7
9(1)	B 図形	-5.5

内容別	知識・技能	2問
	思考・判断・表現	3問

【考察】

全国と比べて3ポイント以上差がある問題について、学習指導要領の領域別に見ると(A数と式)で1問、(B図形)(データの活用)でそれぞれ2問となっている。4領域で全国を下回っている。(B図形)領域の設問9(1)は全国の正答率が低く岩見沢市ではそれよりも低く、「筋道を立てて考える」指導が強く求められています。具体的には、証明する方針を立てて、それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるようにするなど、指導することが大切です。

#### IV 児童生徒の質問紙調査の結果

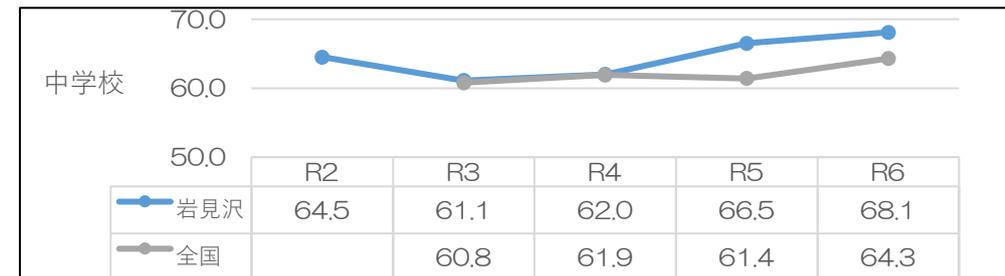
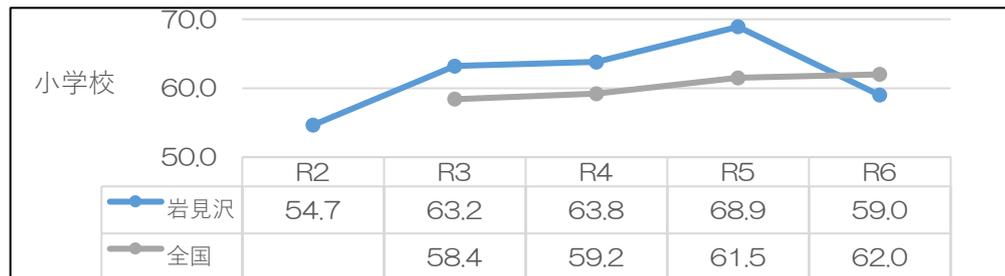
##### 1 学習について

###### (1) 小・中学校国語 児童生徒質問紙調査

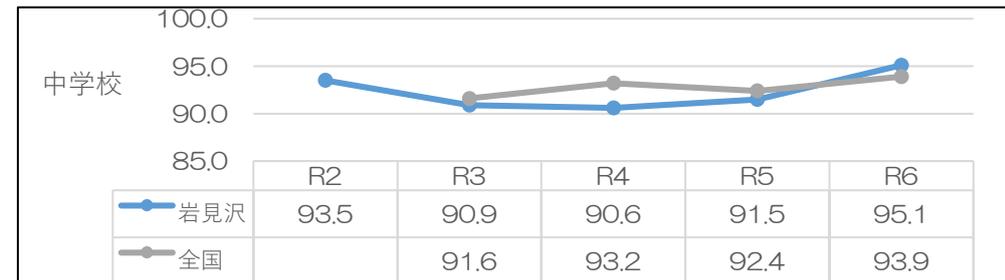
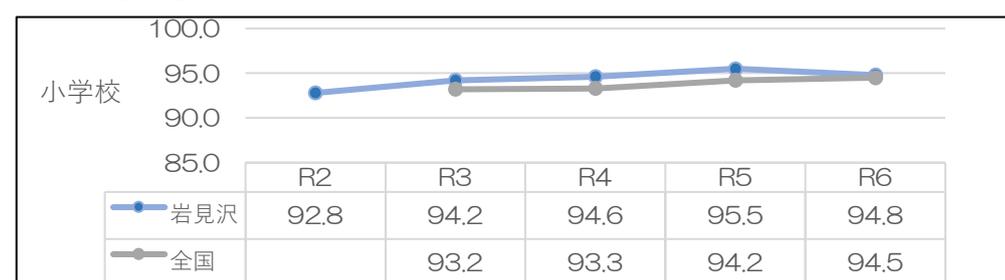
・小・中学校国語についての設問において全国と同様の傾向が見られるが、岩見沢市児童生徒の顕著な回答として次のことが挙げられる。

- ・(42)「国語の勉強は好きですか」の問いに肯定的に回答している割合が中学校が全国を上回っている。
- ・(44)「国語の授業の内容はよく分かります」の問いに肯定的に回答している割合が小学校が全国を上回っている。
- ・(45)「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が小・中学校共に全国を上回っている。

(42)国語の勉強は好きですか



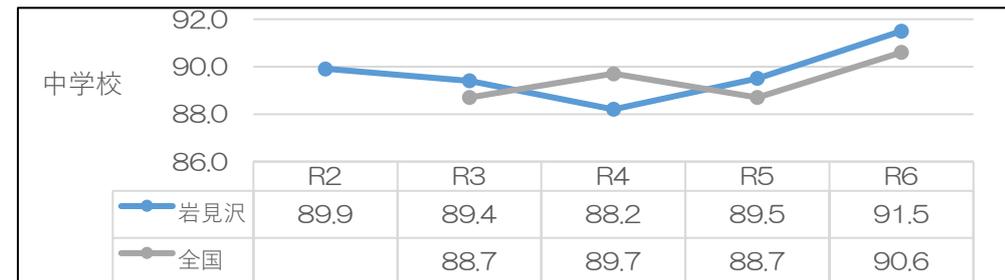
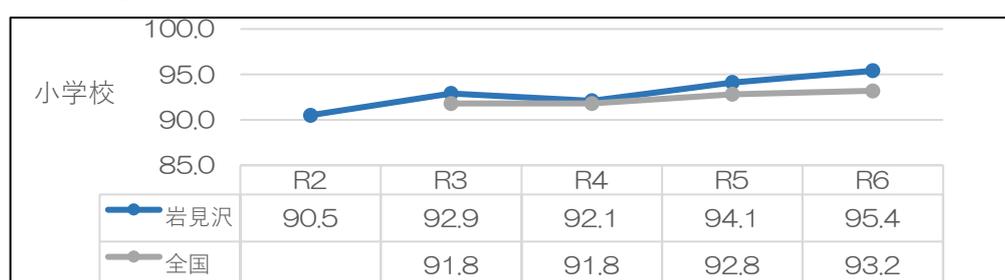
(43)国語の勉強は大切だと思いますか



(44)国語の授業の内容はよく分かりますか



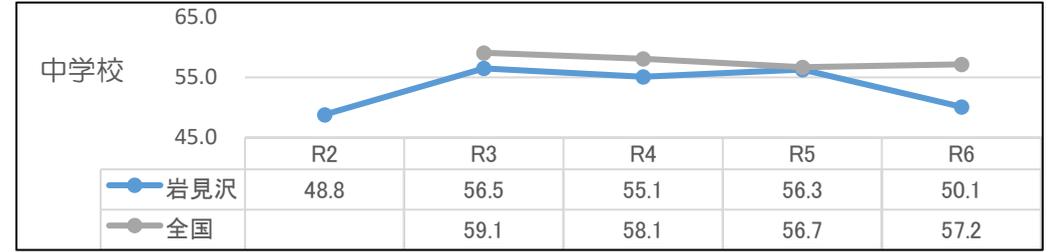
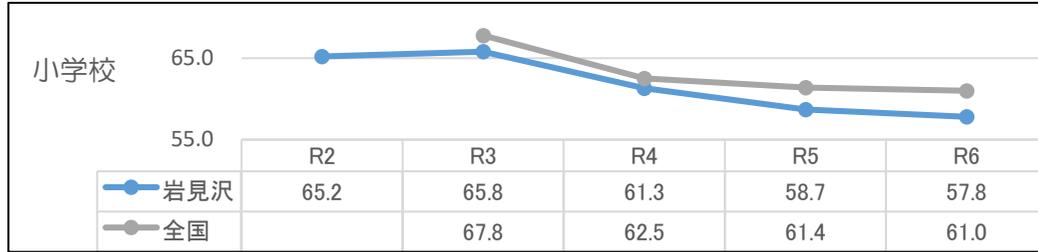
(45)国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



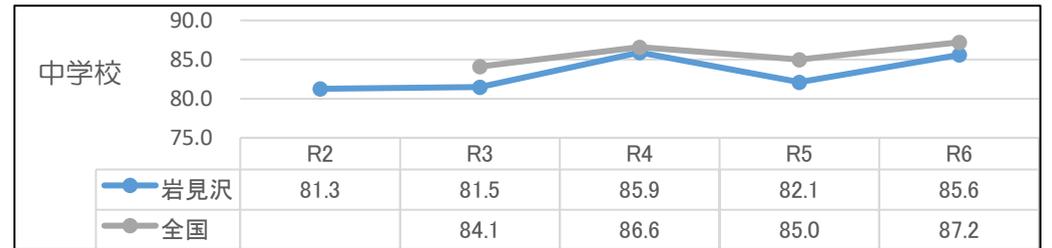
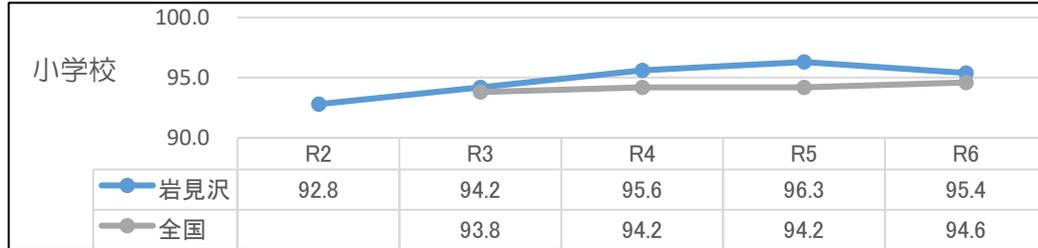
(2) 小・中学校算数(数学) 児童生徒質問紙調査

- ・小学校算数・中学校数学の設問については、多くの設問への回答において全国と同様の傾向がみられる。
- ・岩見沢市の児童生徒の顕著な回答としては、(51)「算数(数学)の勉強は大切だと思いますか」の問いに肯定的に回答している割合が、小学校は全国をわずかに上回り、中学校は下回っている。
- ・(50)「算数(数学)の勉強は好きですか」や(52)「算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか」の問いへの肯定的な回答の割合は、小・中学校ともにわずかに下回っている。

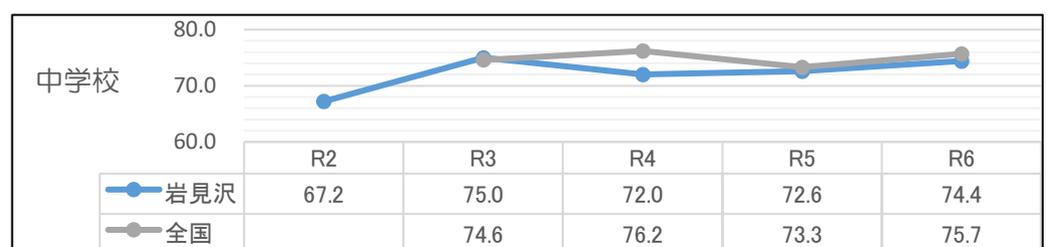
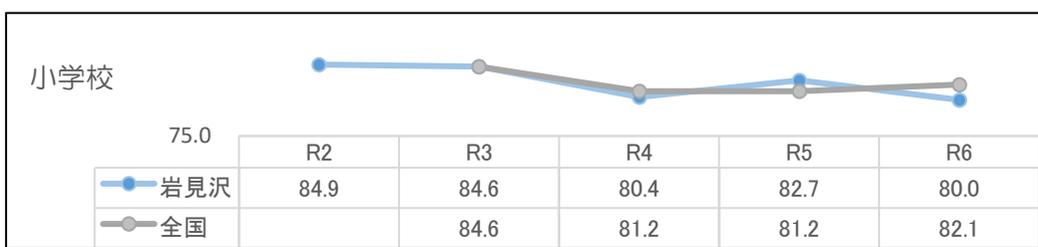
○(50)算数(数学)の勉強は好きですか



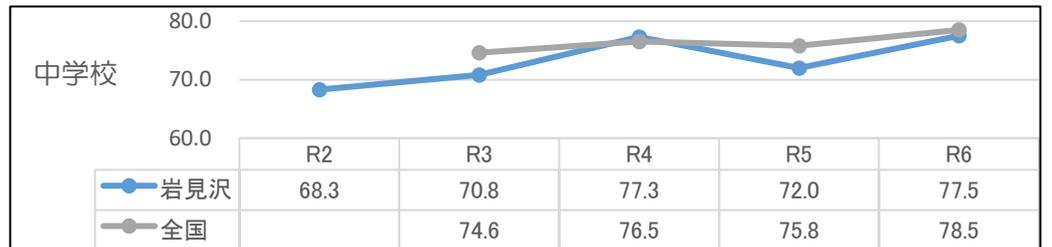
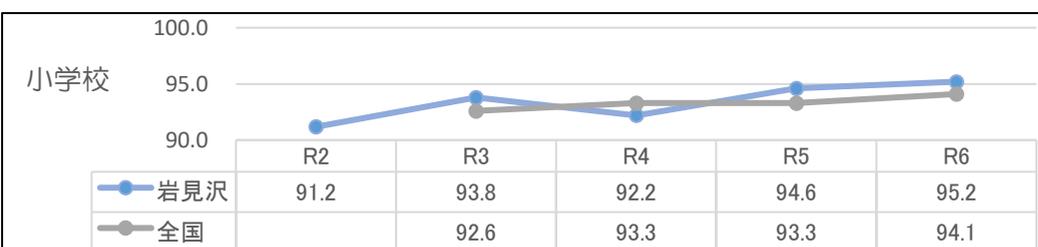
○(51)算数(数学)の勉強は大切だと思いますか。



○(52)算数(数学)の授業の内容はよくわかりますか



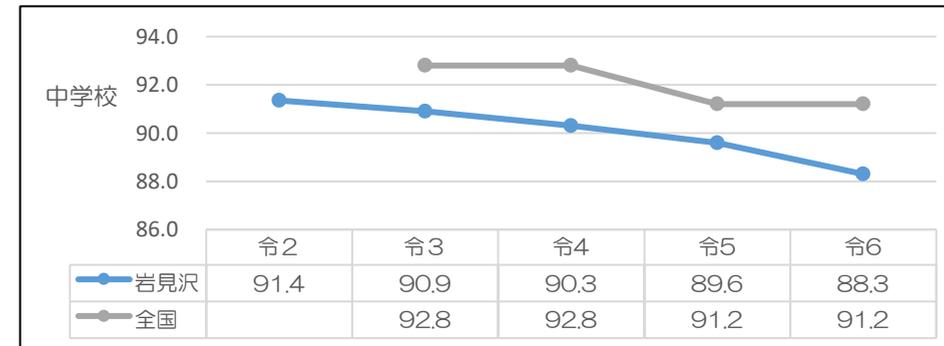
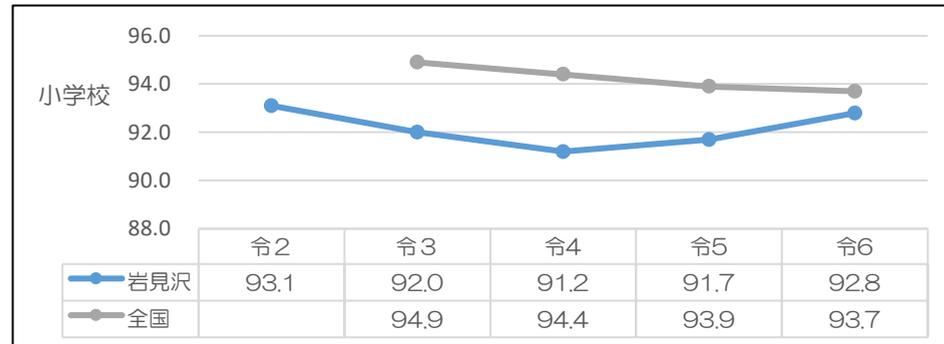
○(53)算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。



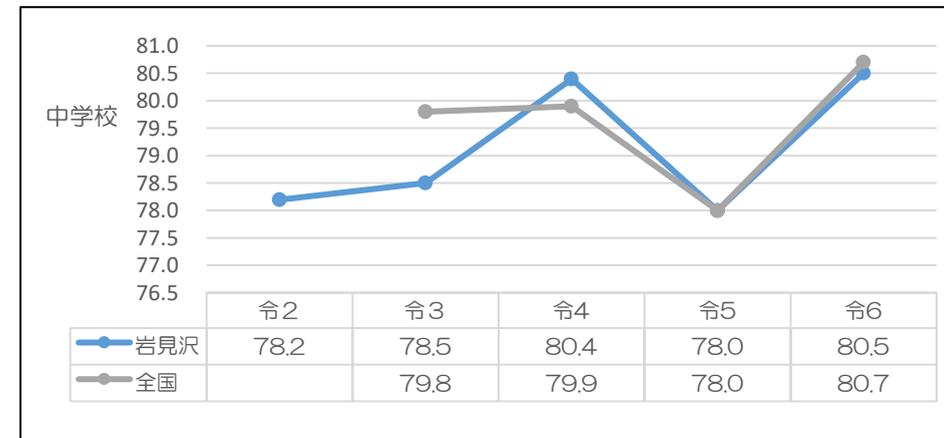
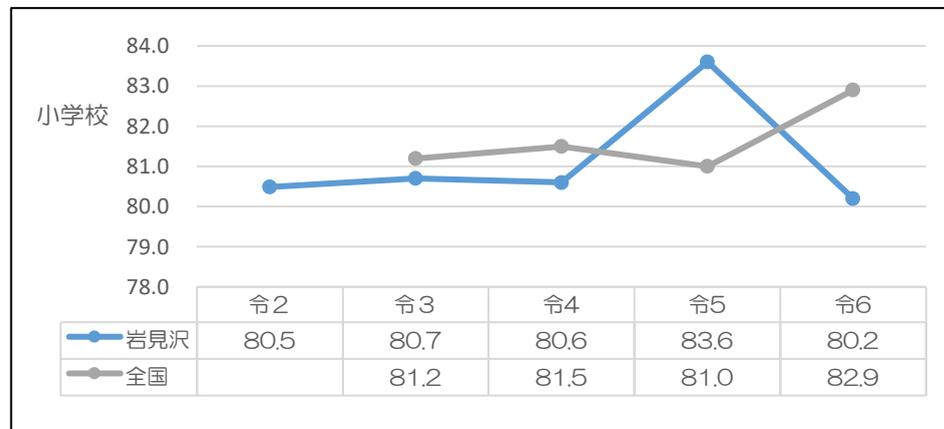
## 2 基本的生活習慣

- 「朝食を毎日食べていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べ、小学校は0.9ポイント、中学校は2.9ポイント下回っているが、昨年度と比較すると小学校では1.1ポイント向上し、中学校では1.3ポイント下降している。5年間の経年変化で見ると小学校、中学校はともに下回っているが、小学校は一昨年度より改善傾向になり、全国平均に近づいている。
- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」の2つの設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では2.7ポイントと3.2ポイントとともに大きく下回り、中学校ではともに前年度より上昇し全国とほぼ同じになっている。

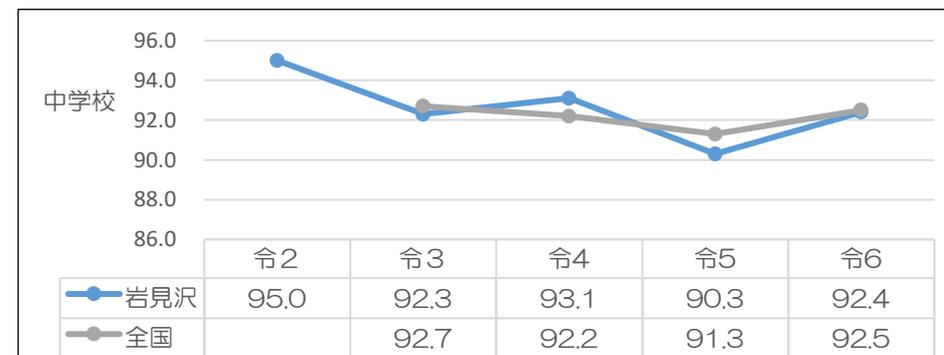
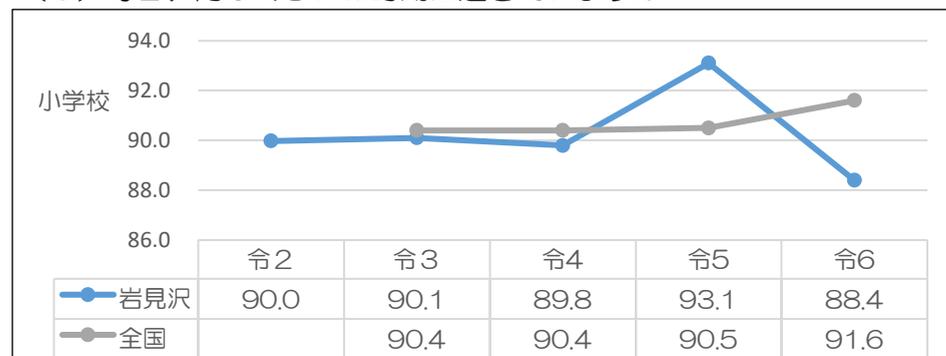
### (1) 朝食を毎日食べていますか



### (2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



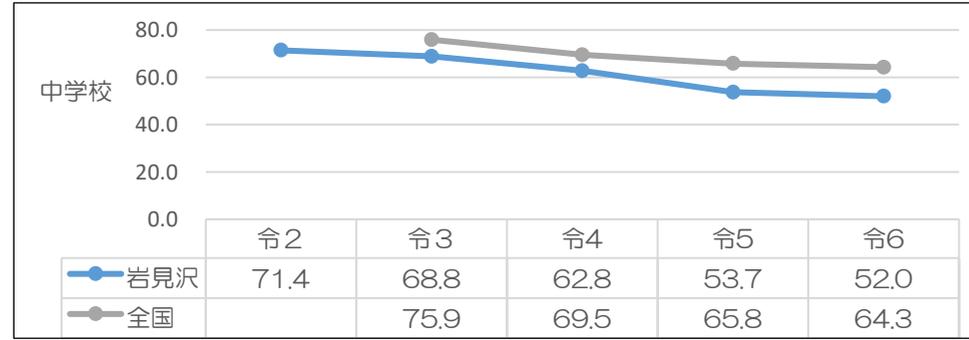
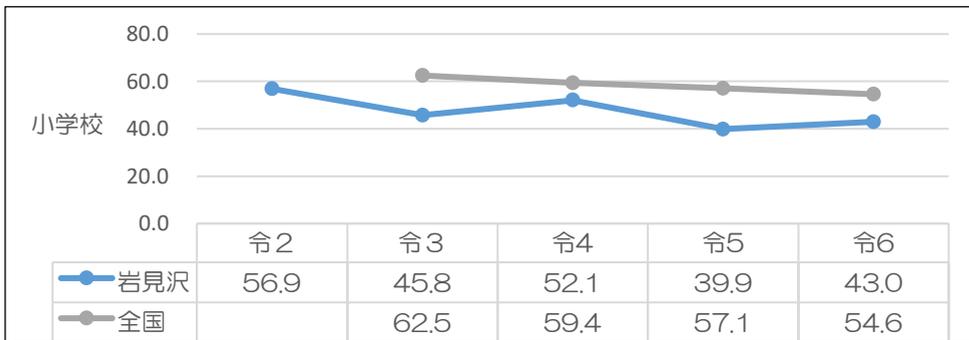
### (3) 毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



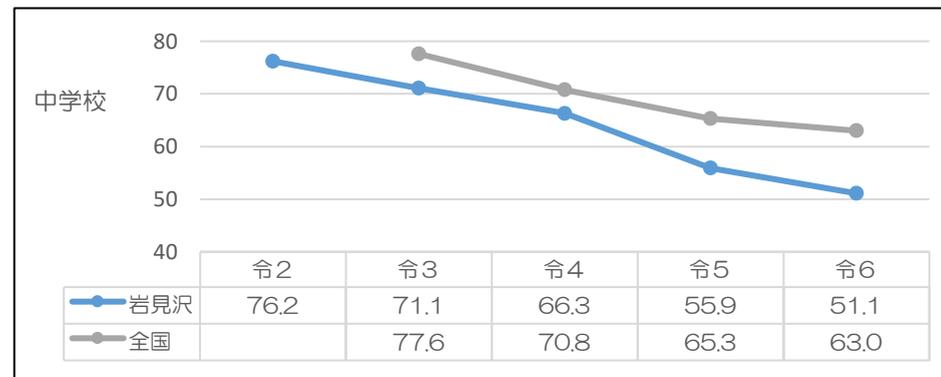
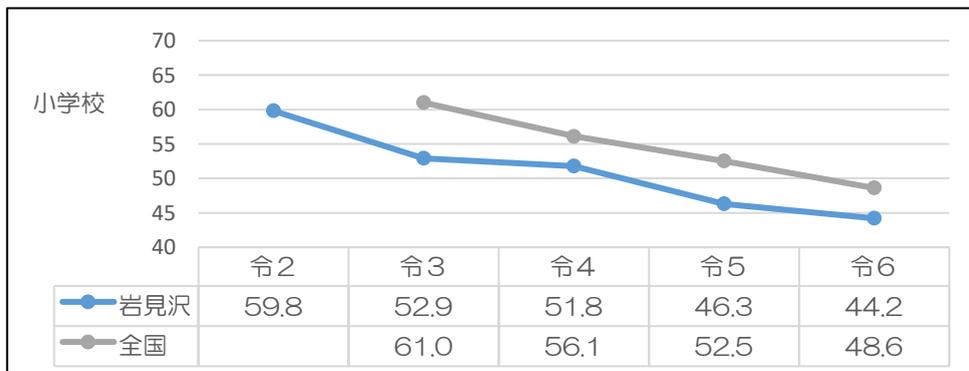
### 3 家庭学習

「普段、家庭学習を行っている時間」で、小学校1時間以上、中学校2時間以上と回答した児童生徒の割合は全国と比べて、小学校は11.6ポイント、中学校は12.3ポイント下回っているが、昨年度より全国との差は少し縮まってきている。5年間の経年変化で見ると、小学校は下降傾向から上向きに変わり、中学校は令和3年度からの下降傾向が続き、全国との差も広がりつつある。※1時間以上勉強している割合

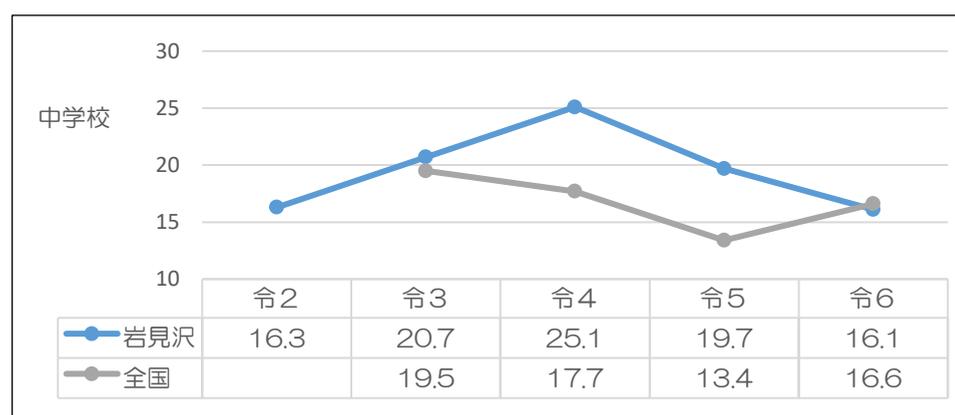
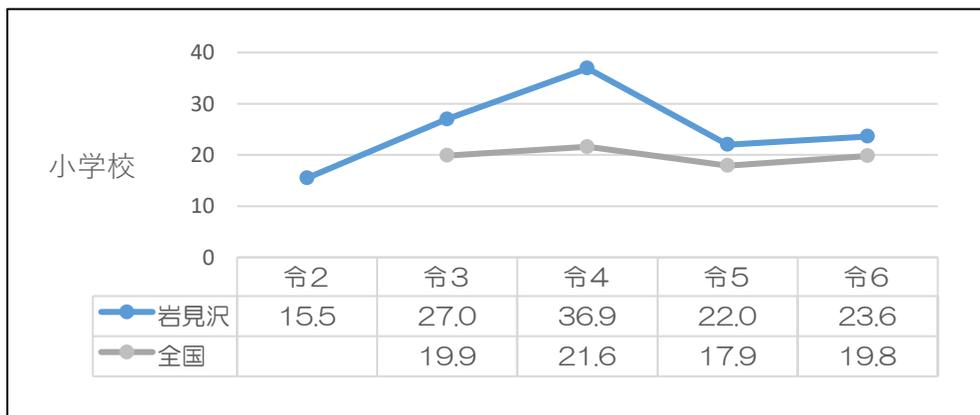
(21) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）



(22) 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか ※1時間以上勉強している割合



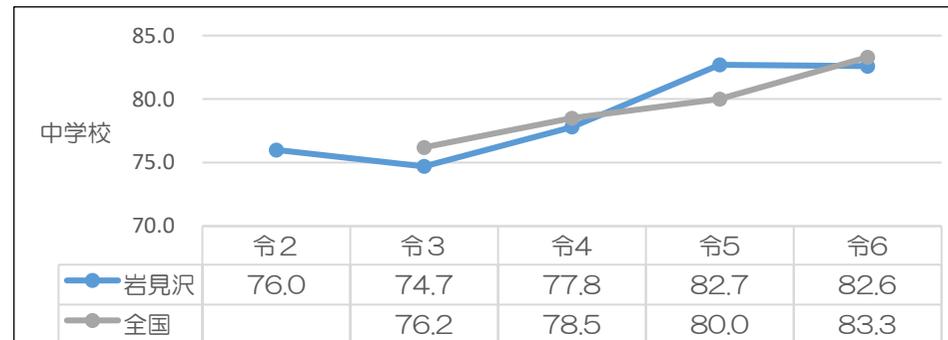
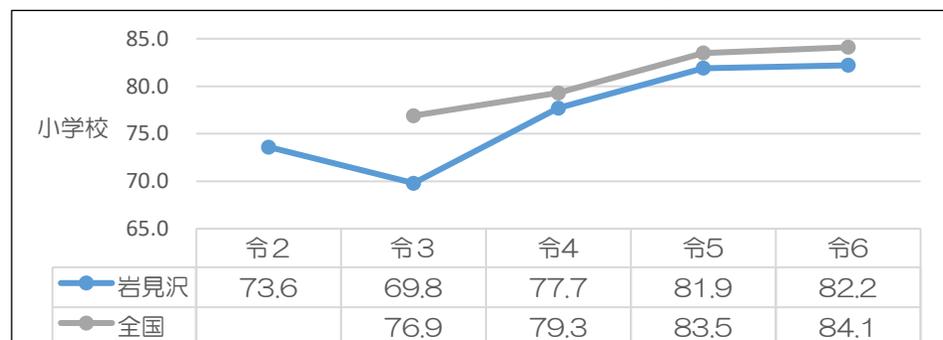
(4) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く） ※1時間以上勉強している割合



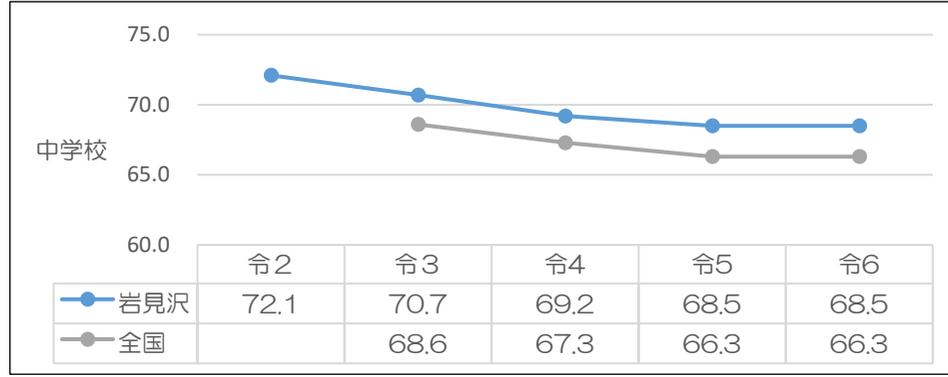
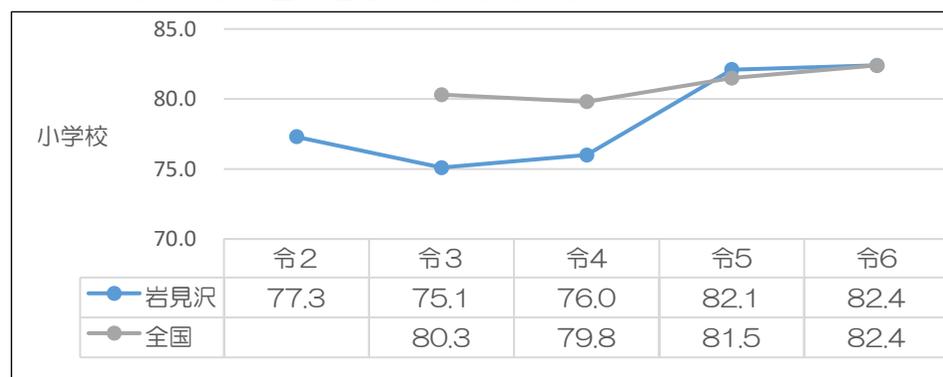
#### 4 児童生徒の自己有用感に関する状況

「自分には、よいところがあると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では1.9ポイント下回り、中学校では0.7ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると共に上昇傾向だったが、昨年度から小学校は微増、中学校は微減の横ばい状態である。「将来の夢や目標を持っていますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と同じ、小学校では全国と同じ、中学校では2.2ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は上昇傾向になったが昨年度からは微増の横ばい、中学校は下降傾向から横ばい状態になっている。しかし、「学校へ行くのは楽しいと思いますか」に対する肯定的な回答が、小学校で昨年度は全国と同様だったのが、今年度は7.2ポイントも大きく下降している。

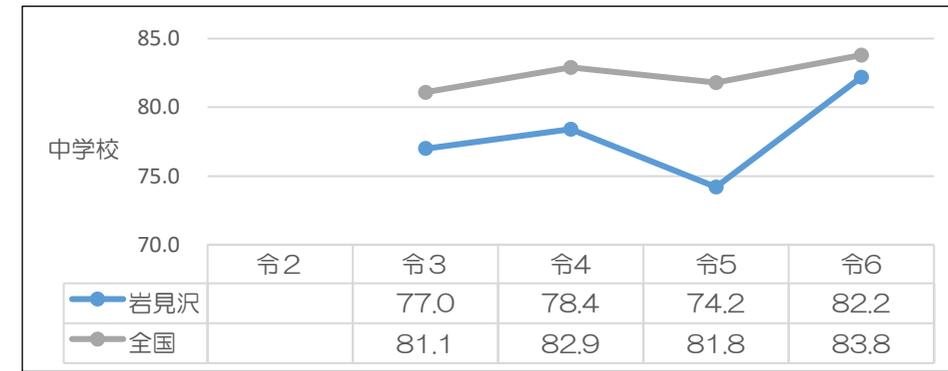
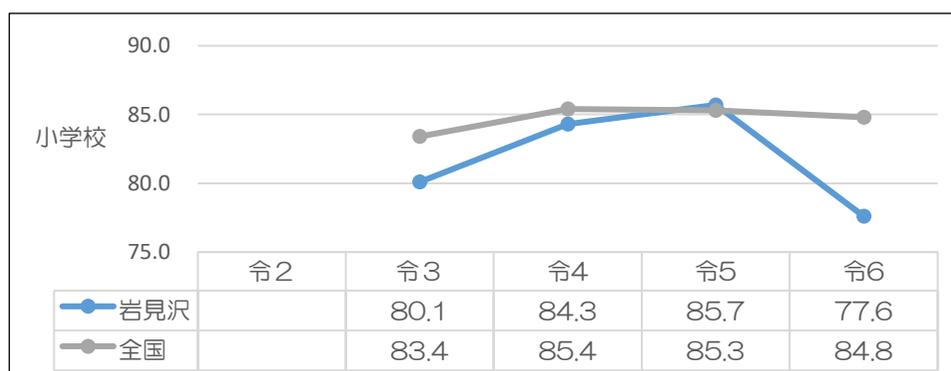
(9) 「自分には、よいところがあると思いますか」



(11) 「将来の夢や目標を持っていますか」



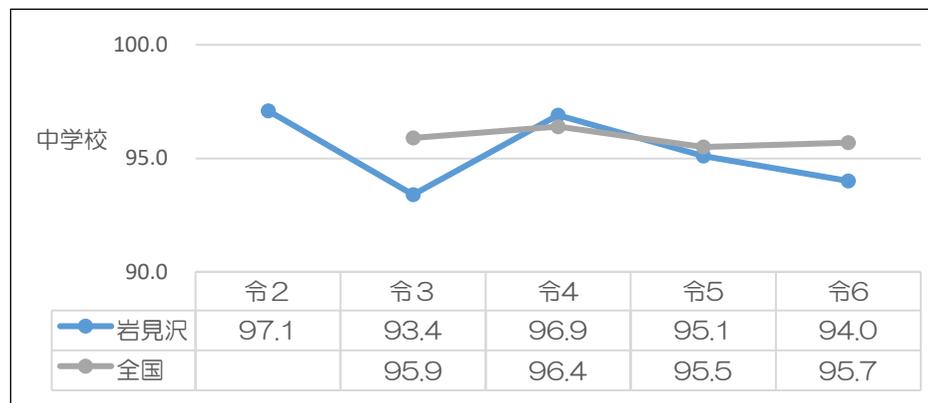
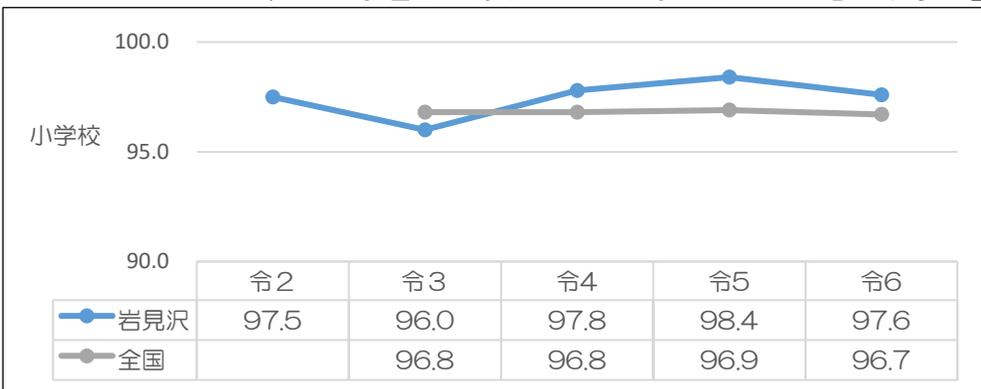
(16) 「学校へ行くのは楽しいと思いますか」



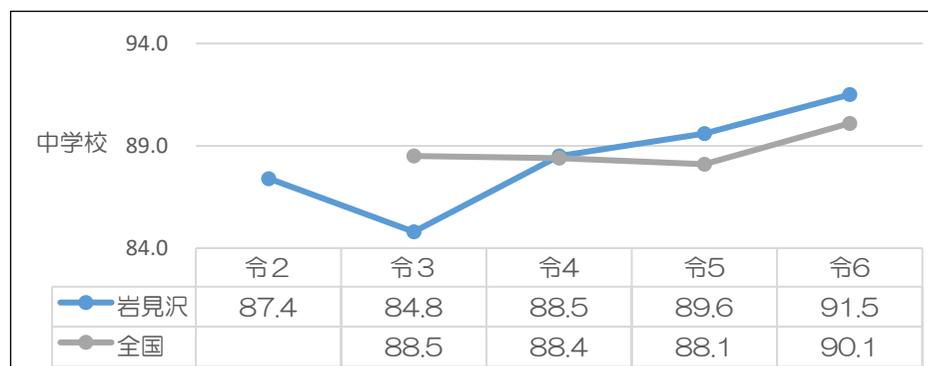
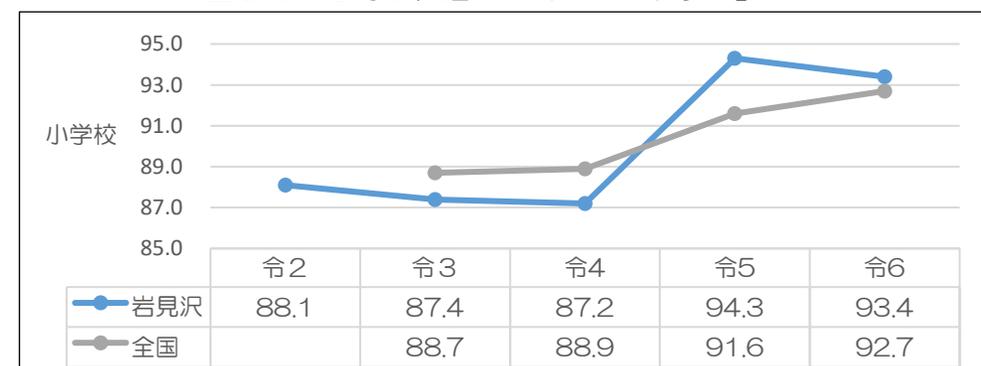
## 5 児童生徒の規範意識に関する状況

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.9ポイント上回り、中学校では1.7ポイント下回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は今年度下降し、中学校は昨年度に引き続いて下降傾向が続いている。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」の設問は全国と比べ、小学校は0.7ポイント、中学校は0.5ポイントの差で全国と同様になっている。

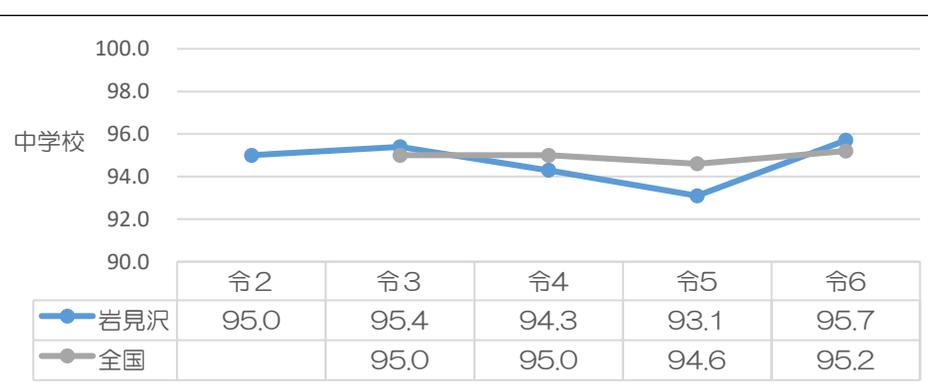
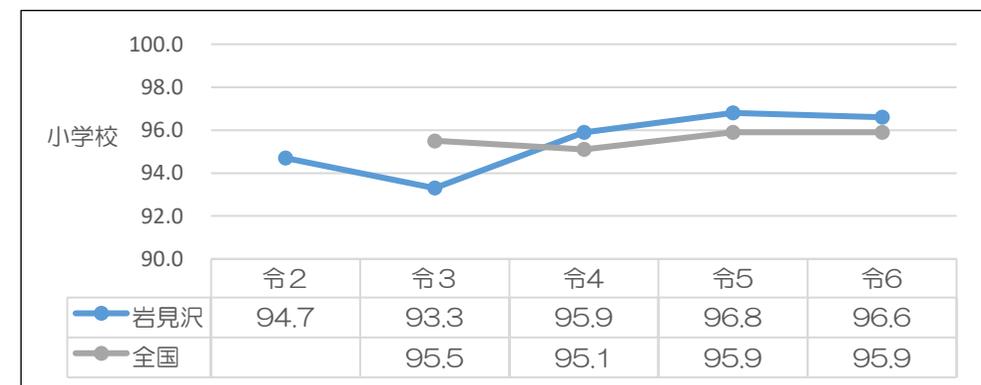
(1 3) 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」



(1 2) 「人が困っている時は、進んで助けていますか」



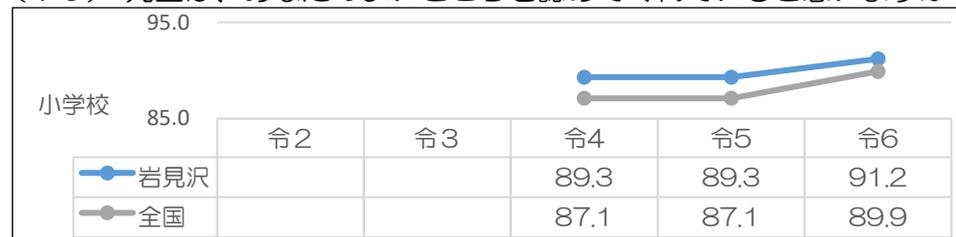
(1 5) 「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」



## 6 児童生徒の学習意欲等に関する状況

「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は1.3ポイント、中学校では0.9ポイント上回っている。3年間の経年変化で見ると小学校も中学校も引き続き上昇傾向が続き、今年度はともに91%を越えている。一方で、困りごとや不安を先生や大人に相談することについては、下降傾向にある。

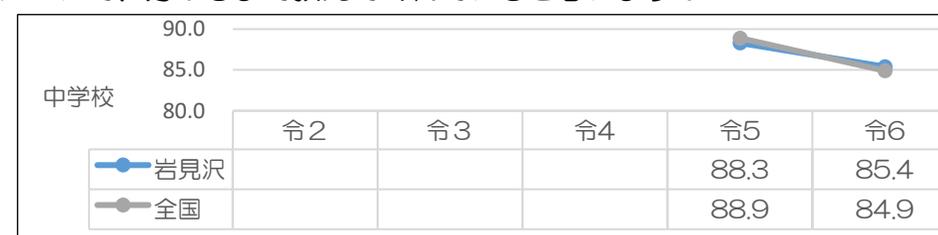
(10) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



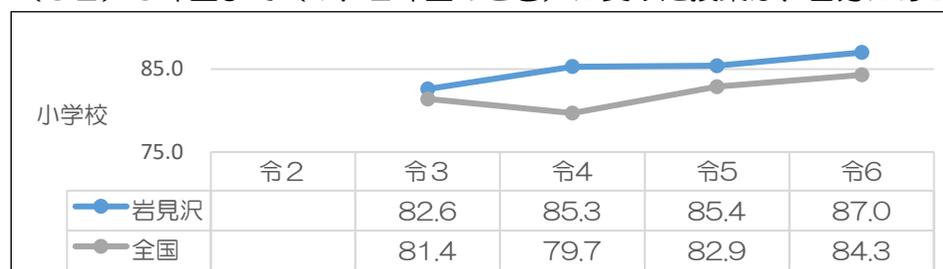
(14) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談出来ますか



(36) 先生は授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか



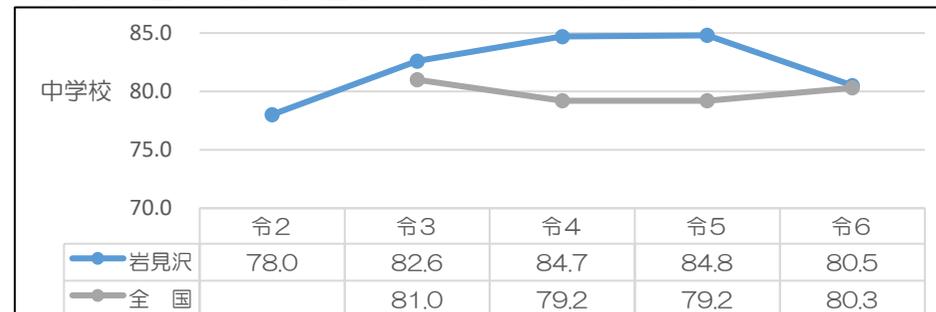
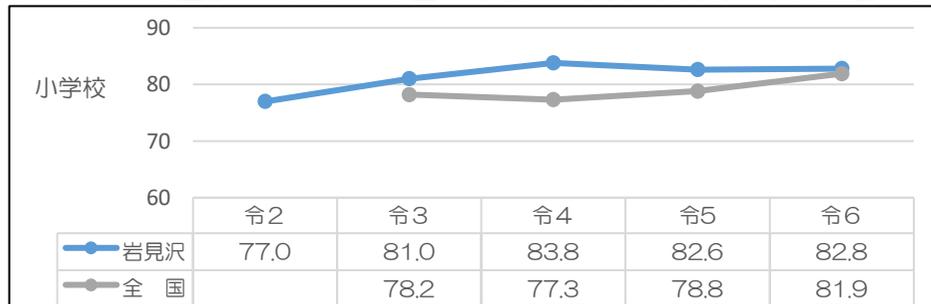
(32) 5年生まで(1、2年生のとき)に受けた授業は、自分にあった考え方、教材、学習時間となっていましたか



## 7 主体的・対話的な学び

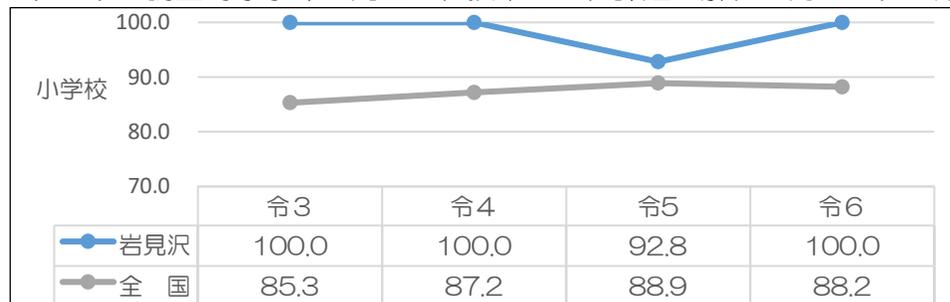
「5年生まで（中1・2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は0.9ポイント、中学校は0.2ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると、小学校、中学校ともに全国を上回っているが、今年度はほぼ同じ割合になっている。「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校では1.5ポイント、中学校では3.5ポイント上回っている。5年間の経年変化で見ると小学校は引き続き上昇傾向、中学校は令和4年度から上昇傾向が続いている。学校質問紙「調査対象学年の児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分の考え、自分から取り組むことができますか」という設問に対する肯定的な回答は全国と比べて、小学校は11.8ポイント、中学校では11.6ポイント上回っている。経年変化で見ると小学校は肯定的な回答が前年度より上昇して100%で、中学校は肯定的な回答が引き続き100%である。

(30) 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

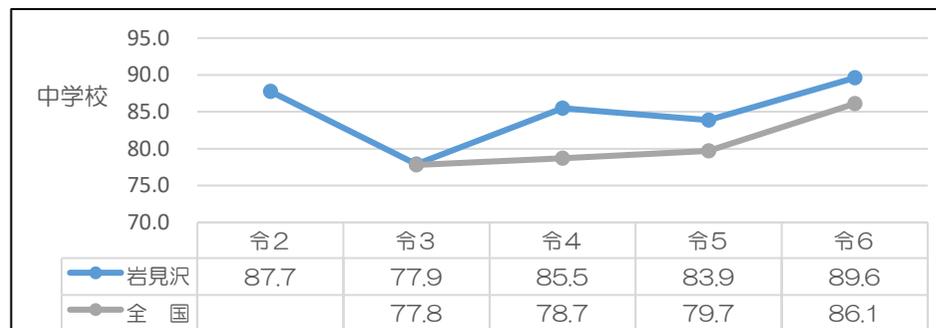
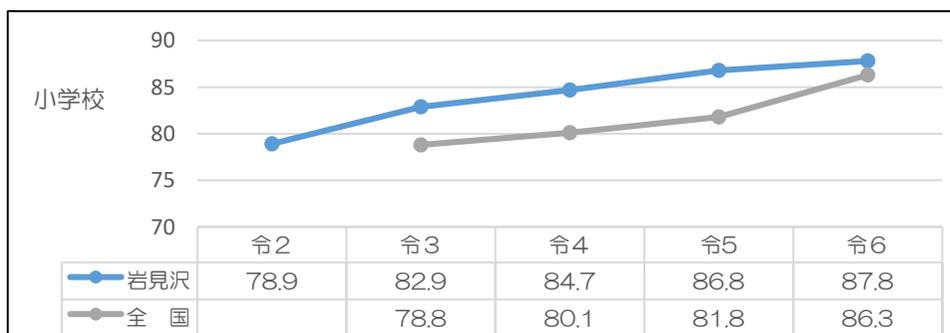


### 【学校質問紙】

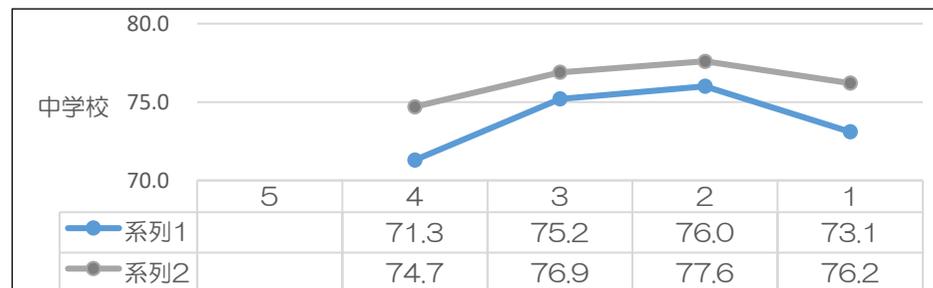
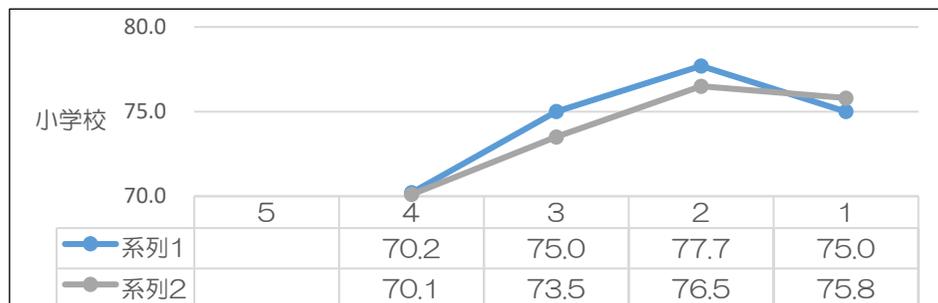
(25) 調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができますか



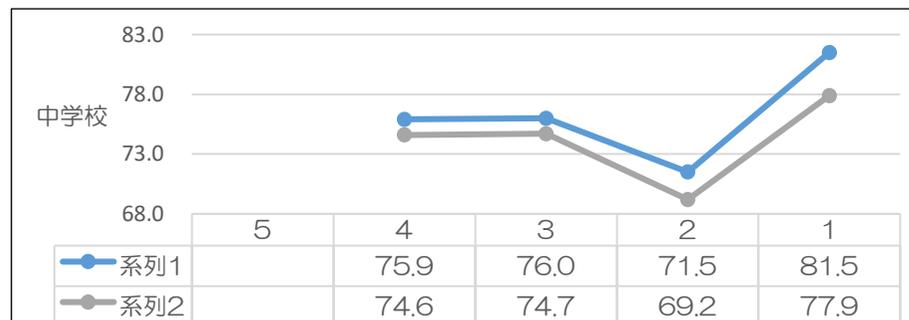
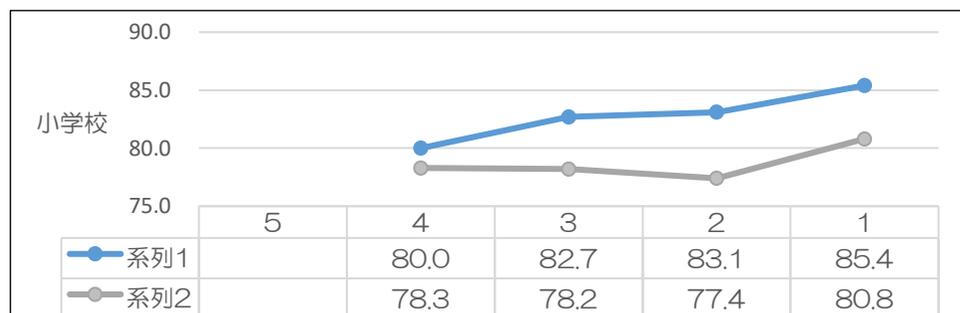
(33) 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



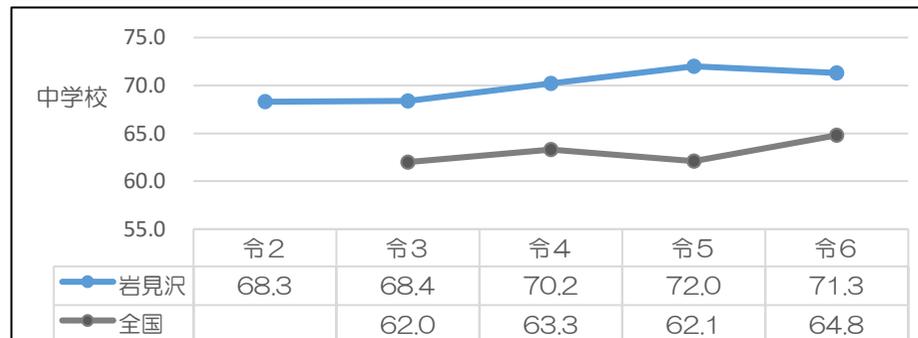
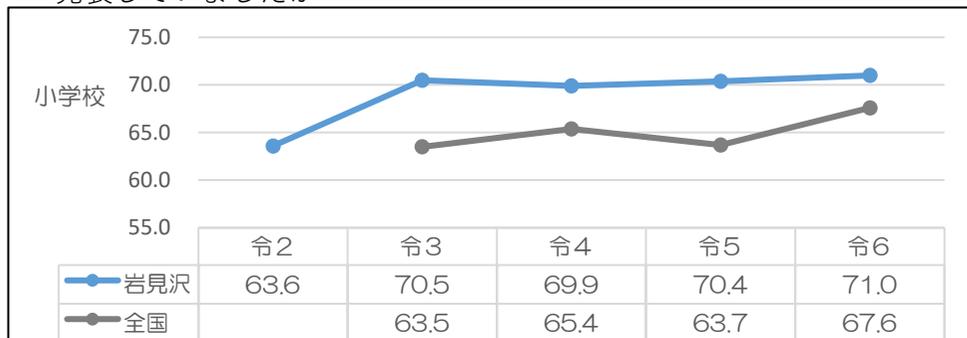
(17) 「自分と違う意見について考えるのは楽しい」



(34) 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

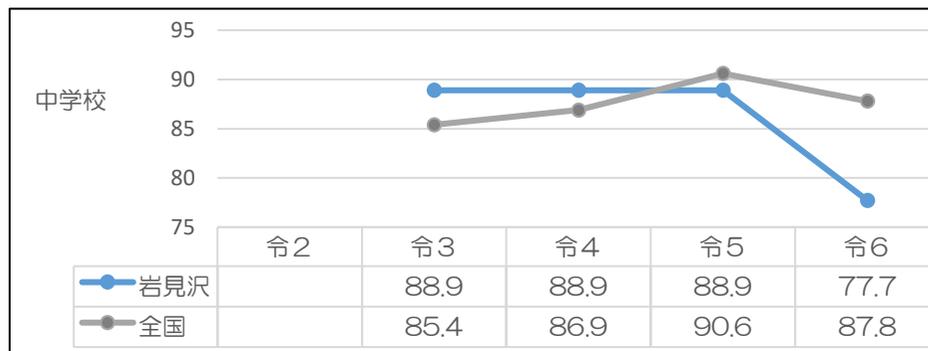
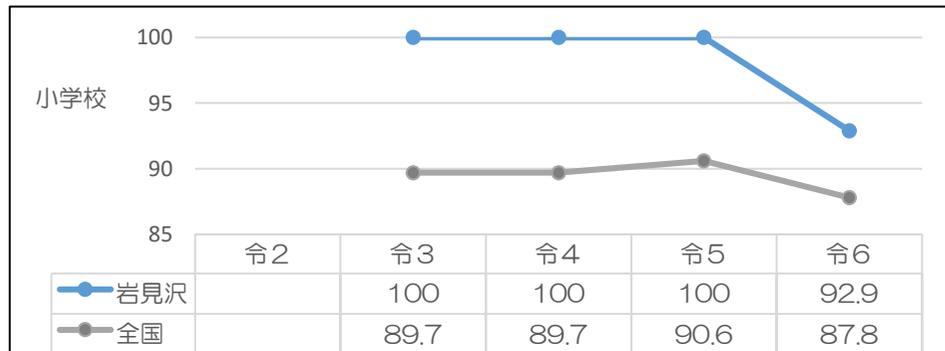


(29) 5年生(1、2年生)までに受けた授業で自分の考えを発表する機会では自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



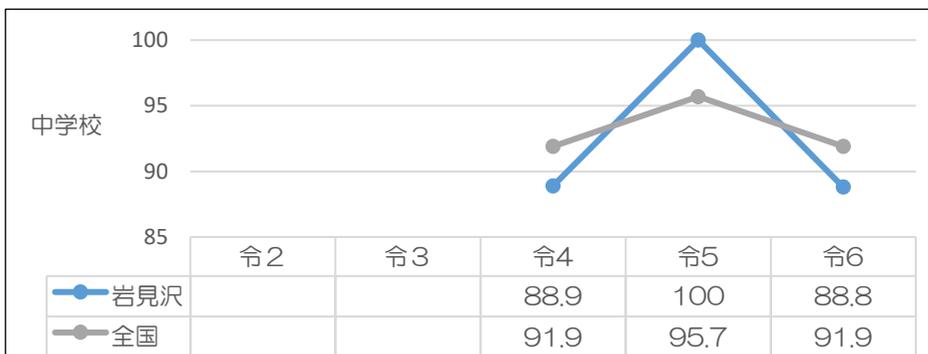
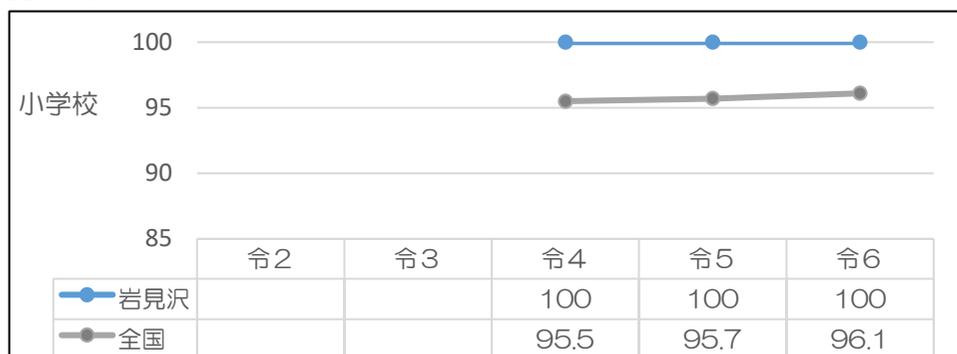
## 8 学習指導の改善【学校質問紙】

(小73・中77) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や学習改善に活かしましたか



### 【学校質問紙】

(小71・中75) 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに学校では、家庭学習の取組として、学校では、家庭での学習方法等を具体例をあげながら教えましたか



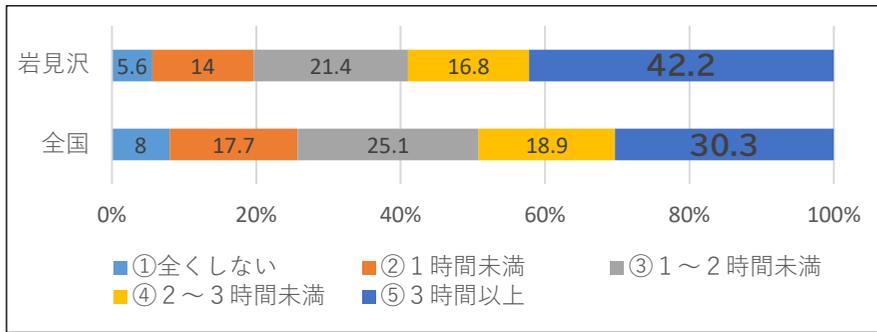
V 児童生徒のICTに関する状況

1 ゲームや動画視聴に関する状況

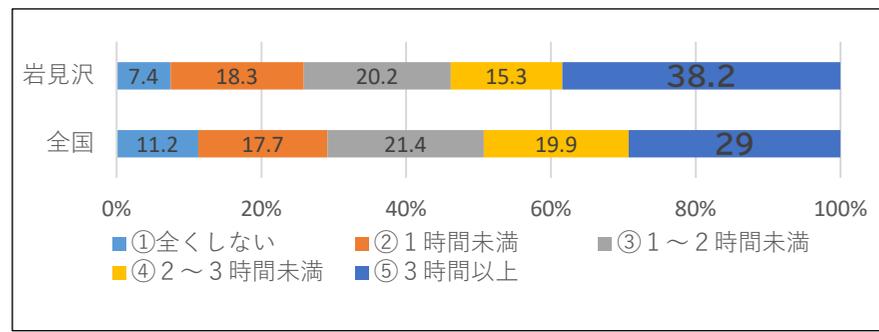
「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか」という設問では、全国と比べて3時間以上という回答が小学校は11.9ポイント、中学校では9.2ポイント上回っていて、経年変化で見るとともに増加していて大きな課題となっている。さらに「普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴をしますか」という設問でも全国と比べて、小学校は4.7ポイント、中学校は13.4ポイント上回っていて、特に中学校で大きな増加で課題となっている。

(5) 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

1 小学校

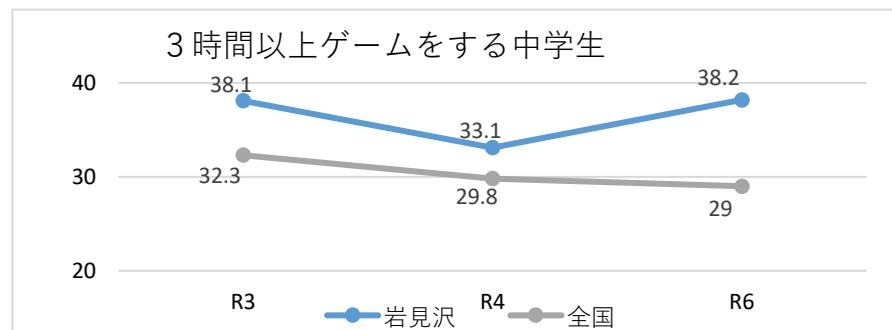
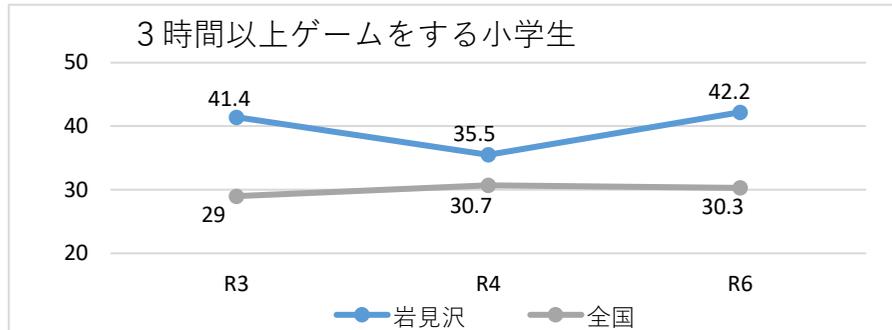


2 中学校



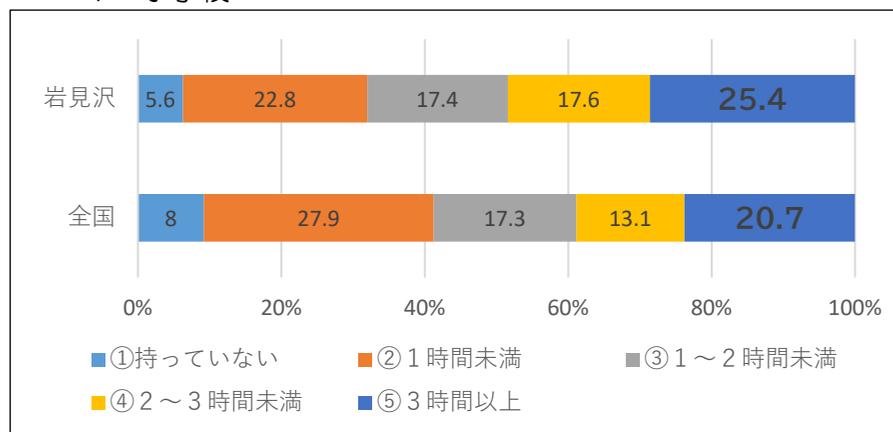
R 6 小		①全くしない	②1時間未満	③1～2時間未満	④2～3時間未満	⑤3時間以上
小学校	岩見沢	5.6	14.0	21.4	16.8	42.2
	全国	8.0	17.7	25.1	18.9	30.3
	差	-2.4	-3.7	-3.7	-2.1	11.9

R 6 中		①全くしない	②1時間未満	③1～2時間未満	④2～3時間未満	⑤3時間以上
中学校	岩見沢	7.4	18.3	20.2	15.3	38.2
	全国	11.2	17.7	21.4	19.9	29.0
	差	-3.8	0.6	-1.2	-4.6	9.2

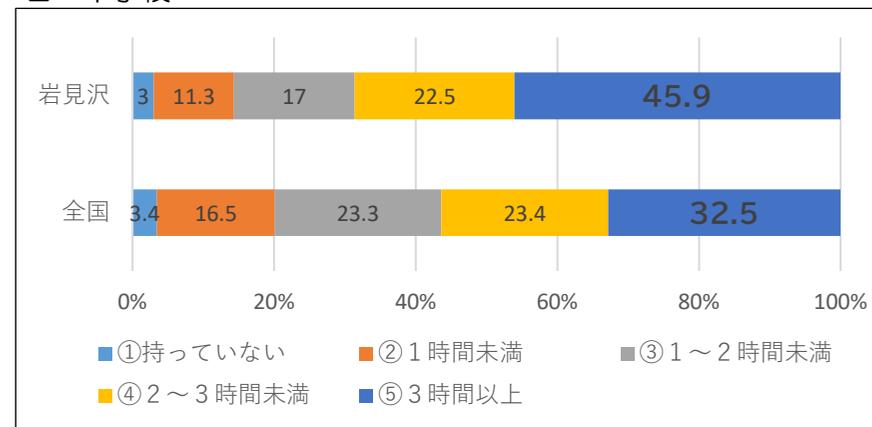


(6) 普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、SNSや動画視聴をしますか

1 小学校

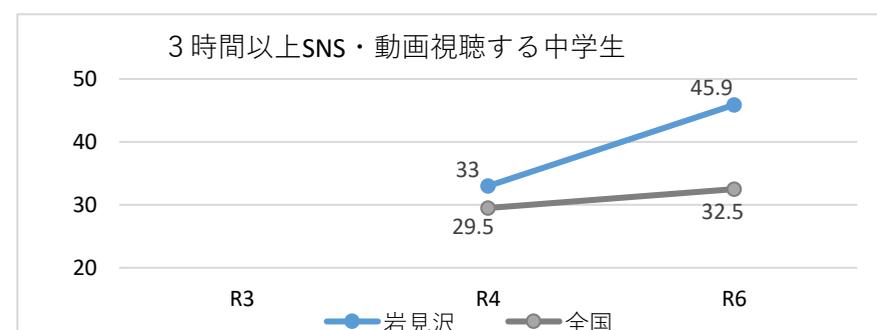
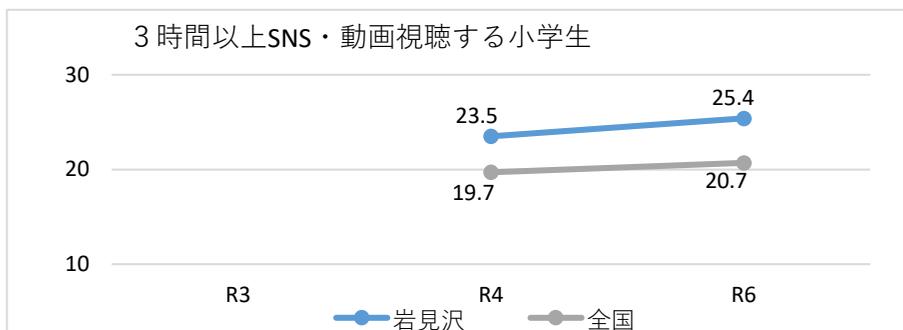


2 中学校



R 6 小		①持っていない	②1時間未満	③1～2時間未満	④2～3時間未満	⑤3時間以上
小学校	岩見沢	5.6	22.8	17.4	17.6	25.4
	全国	8.0	27.9	17.3	13.1	20.7
	差	-2.4	-5.1	0.1	4.5	4.7

R 6 中		①持っていない	②1時間未満	③1～2時間未満	④2～3時間未満	⑤3時間以上
中学校	岩見沢	3.0	11.3	17.0	22.5	45.9
	全国	3.4	16.5	23.3	23.4	32.5
	差	-0.4	-5.2	-6.3	-0.9	13.4



## VI 調査結果を踏まえた各学校が取り組むべき岩見沢市の3つの方策

### 1 学習者主体による授業改革の推進

#### ○ 身に付ける資質・能力を明確にし、子どもとの対話により、「教える」べきことを教え、「考えさせる」べきことを考えさせる授業の展開

- ① 教師の教科等分析力の向上と子どもの主体性を促すファシリテート力を磨く
  - ・教科等のねらいは何か、何を教えるのか、何を学ばせるのか、学習活動を通してどんな力を身に付けさせるのか
- ② 自校の課題を踏まえ「個別最適な学び」と「協働的な学び」を具体化する指導過程の確立
  - ・子ども自ら課題をつくり、見通しを持って学習する
  - ・既習事項の活用を意識し、「転移する学力」を育てる
  - ・子どもの学びの「振り返り」「学び直し」を大切にして学んだことの定着を確実に図る
- ③ 求められる資質・能力の育成・向上
  - ・狭義の「言語力・計算力」など基本的技能を確実に身に付けさせることと、各教科等で学ぶ「知識・理解」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の育成について、自校の教育課程にバランス良く配置し総合的に育てる
  - ・ICTを効果的に活用し情報活用能力を育てるとともに、学習の個別化や協働的な学習の構築に努める
- ④ 「学習スキルの向上」と「学習ルールの徹底」
  - ・ICTや思考ツール等を活用し基本的な学習スキルを身に付けさせるとともに「学びに向かう姿勢」を学習ルールとして徹底する

## 2 子どもの学習意欲や目的意識を高める組織体制の整備・拡充と全校での取組

○ 子どもたちの学びへの意欲を高め、将来に対する夢や希望を育むために、同じ中学校区の学校で目指す子ども像を共有することや自校の特色を生かした重点的な目標を明確にするとともにエビデンスに基づく検証による取組の推進

- ① 全国学力・学習状況調査、各種調査等によるカリキュラム・マネジメント
  - ・授業時数特例校制度の活用等による自校の課題解決に向けた取組
  - ・全国学力・学習状況調査結果の誤答類型に基づく学習内容の分析と授業内容の改善
- ② 子どもの学びの姿に基づく評価の工夫と指導方法の改善
  - ・ICTの活用による多面的・多角的な評価の充実
  - ・授業動画等の記録による授業研究の改善・充実
- ③ 子どもの学習意欲を喚起し個々の学びの時間の確保と充実に向けた取組
  - ・家庭や地域に広がる学びとなる探究的な学習の展開
  - ・AIドリル等を活用した家庭学習の充実
- ④ 小・中連携による取組の共有と継続
  - ・小・中で目指す子ども像を共有し指導過程の継続と授業過程の統一による学びの確立
  - ・小・中合同研究による指導方法の統一
  - ・児童生徒理解の促進

### 3 子どもの基本的な生活習慣の確立

○ 学力の向上と学校生活の安定の基盤は、「子どもたちの規則正しい生活」と捉え、その確立と改善に向けた啓発等の取組の推進

① 各中学校区(コミュニティ・エリア)における取組の推進

- ・「家庭の5つの約束」の理解啓発
- ・ゲーム・スマートフォンの使用のルール等の取り決め
- ・地域の方々の協力を得た授業の実施
- ・岩見沢型ピア・サポートの実施による子どもたちが安心して学ぶことができる学習集団づくりの実現